

## <序 文>

小郡市は、北部・中南部における宅地開発や北東部・中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、現在福岡・久留米両市のベッドタウンとして日々発展を続けています。これに伴い、交通網の整備も着々と進捗しつつあります。

今回ここに報告いたします「大保西小路遺跡6」は、宅地造成に伴う道路建設に先立って小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。遺跡は、三国丘陵からなだらかに伸びる沖積地であり、宝満川、口無川、高原川などによって形成された沖積台地上に築かれています。本遺跡が所在する大保区は、近年の開発に伴う発掘調査により中世を中心とした遺跡が多数発見されています。今回の調査では、小字境の溝が中世より機能していたことが推定されました。御勢大霊石神社周辺は、大宮司により平安時代に町づくりが行われた可能性が指摘されており、今回の調査成果がその解明への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、地権者さん、調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民の皆様、現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に深く感謝を申し上げ、序文といたします。

平成 28 年 3 月 31 日  
小郡市教育委員会  
教育長 清武 輝

## <例 言>

- 1、本書は、小郡市三沢地内における宅地造成に伴う道路造成事業に伴って、小郡市教育委員会が平成 26 年度に発掘調査を行った大保西小路遺跡 6 の埋蔵文化財発掘調査の記録である。
- 2、遺構の実測、遺構の写真撮影は西江幸子が実施した。
- 3、遺物の実測は西江、製図は久住愛子、白木千里、宮崎美穂子、洗浄・復元には、衛藤知嘉子、佐々木智子、藤岡恵子、深町幸子、山川清日、永富加奈子ら諸氏に多大なる協力を得た。また、遺物の写真撮影は（有）システム・レコに委託した。
- 4、遺構図中の方角は座標北を示し、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に則している。
- 5、本書で用いた標高は、東京湾平均海水面（T. P.）を基準としている。
- 6、本書で用いている略号は以下のとおりである。  
溝：SD 土坑：SK ピット：P
- 7、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
- 8、本書の執筆・編集は西江が担当した。

## 本文目次

第1章 調査の経過と組織……………	1	第4章 遺構と遺物……………	3
1. 調査の経緯		1. 溝	
2. 調査の経過		2. 土坑	
3. 調査の体制		3. ピット	
第2章 位置と環境……………	2	第5章 まとめ……………	23
第3章 遺跡の概要……………	3		

## 挿図目次

第1図 大保西小路遺跡6 調査地位置図 (S=1/2500)	第11図 3号溝出土遺物実測図①(S=1/4)
第2図 大保西小路遺跡6 周辺遺跡分布図 (S=1/25000)	第12図 3号溝出土遺物実測図②(S=1/4)
第3図 大保西小路遺跡6 遺構配置図(S=1/250)	第13図 3号溝出土遺物実測図③(S=1/4)
第4図 1号・7号溝実測図(S=1/40)	第14図 3号溝出土遺物実測図④ (6・7:S=1/2、その他:S=1/4)
第5図 2号溝実測図(S=1/40)	第15図 4号・5号溝実測図 (平面:S=1/160、土層断面:S=1/40)
第6図 1号・2号溝出土遺物実測図(S=1/4)	第16図 4号・5号・8号溝、2号・5号土坑 出土遺物実測図(S=1/4)
第7図 3号溝実測図 (平面:S=1/160、土層断面:S=1/40)	第17図 2号・5号・7号・10号土坑実測図(S=1/40)
第8図 3号溝土層断面実測図①(S=1/40)	第18図 6号・8号・9号土坑実測図(S=1/40)
第9図 3号溝土層断面実測図②(S=1/40)	第19図 8号・9号土坑、ピット出土遺物実測図(S=1/4)
第10図 3号溝土層断面実測図③(S=1/40)	第20図 調査地周辺の小字と溝

## 表目次

大保西小路遺跡6 出土遺物観察表

## 図版目次

図版1 ①調査区全景(真上から)	⑪4号溝ベルト土層断面(北側から)
②1号溝ベルト土層断面(東側から)	⑫5号溝ベルト土層断面(北側から)
③1号溝完掘(西側から)	⑬7号溝北壁土層断面(南側から)
④2号溝ベルト土層断面(東側から)	⑭5号土坑土器出土状況(南側から)
⑤3号・8号溝完掘(西側から)	⑮5号土坑西壁土層断面(東側から)
⑥2号溝完掘(東側から)	⑯6号土坑完掘(北側から)
⑦4号溝完掘(南側から)	⑰8号土坑完掘(西側から)
⑧4号溝完掘(北側から)	⑱9号土坑整地層検出状況(東側から)
⑨7号溝完掘(南側から)	⑲調査区遠景(南側から)
⑩5号土坑完掘(北側から)	図版2 出土遺物

# 第1章 調査の経過と組織

## 1. 調査の経緯

大保西小路遺跡6の発掘調査は、小郡市三沢字権道12-1、12-2、12-3、字舞々11-2、11-4における宅地造成事業に先立ち、地権者より平成26年9月25日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無に関する照会（審査番号14071）が提出されたことに始まる。市教委では、これを受けて平成26年10月2日に申請地の試掘調査を行った結果、地表下60～75cmの深さで遺構が確認されたため、開発に先立って埋蔵文化財に関する協議を行った。

協議の結果、敷地のうち宅地造成事業に伴う道路造成事業地についての264㎡について発掘調査を実施することとなった。

## 2. 調査の経過

発掘調査は平成27年1月8日から同年3月2日にかけて実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

- 1月8日 表土剥ぎ開始。(～13日)
- 1月14日 発掘作業員を投入し、遺構検出・掘削開始。
- 2月20日 全景写真撮影。
- 2月25日 遺構実測終了。埋戻し開始。(～27日)
- 3月2日 現場引き渡し、調査完了。

以後、図面・遺物整理作業及び報告書作成実施。

## 3. 調査の体制

大保西小路遺跡6の調査の体制は、以下のとおりである。

〔平成26年度〕

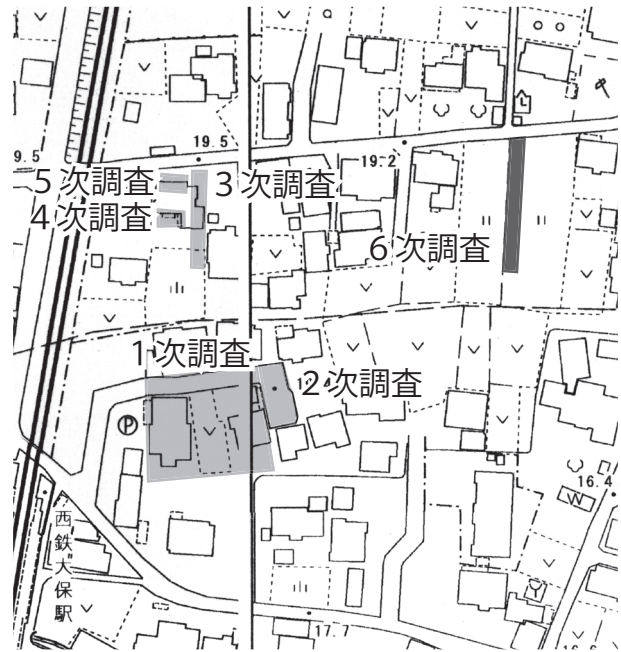
小郡市教育委員会  
教育長 清武 輝  
教育部長 佐藤 秀行  
文化財課長 片岡 宏二  
係長 柏原 孝俊  
技師 西江 幸子（調査担当）

〔平成27年度〕

小郡市教育委員会  
教育長 清武 輝  
教育部長 佐藤 秀行  
文化財課長 片岡 宏二  
係長 柏原 孝俊  
技師 西江 幸子（整理担当）

〔発掘作業従事者〕

草場誠子、土井久江、西島勝徳、松永康弘  
（敬称略）



第1図 大保西小路遺跡6調査地位位置図（S = 1/2500）

## 第2章 位置と環境

小郡市は、中央部を南北に宝満川が流れ、北西部に通称三国丘陵、北東部に花立山（標高130.8 m）から伸びる丘陵があり、南側は緩やかに下る平坦な台地へ移行し、筑後平野へと連なる。

大保西小路遺跡6（1）は、三国丘陵からなだらかに伸びる低台地の縁辺部に位置し、本遺跡周辺の西鉄沿線側は、宝満川周辺よりも標高が高い。

大保西小路遺跡は、これまでに5回調査が行われている。第1次調査では、14～16世紀に相当する韃羽口や鋳型、鉄滓等鍛冶関連の遺物・遺構が発見された（2：市報告99集）。第2次調査では、15～16世紀に相当する大型の土坑が発見された（2：市報告257集）。また、第3次・第4次・第5次調査を第6次調査と同年度に行っており、今年度報告書刊行予定である。以上より、大保西小路遺跡包蔵地内では鍛冶関連の遺構・遺物が多数検出され、中世を中心とした遺跡の広がり確認されている地域である。以下では、大保区周辺地域に分布する遺跡を中心に歴史的環境の概要を示す。

大保区内において最初に人々の活動が確認されたのは、縄文時代であり、大保横枕遺跡2（3：市報告260集）で、縄文土器を伴って石組炉や落とし穴状遺構が検出された。続く弥生時代になると、同じく大保横枕遺跡2で前期に比定される二重環濠を持つ集落が発見されその南に位置する大保横枕遺跡1（4：市報告137集）と共に甕棺墓が広がっていた。古墳時代には、大保横枕遺跡2や大保龍頭遺跡3・4・5・6（5：市報告135・140・183・187集）を中心に竪穴式住居跡が検出されている。古代になると、集落域は西側の三沢寺小路遺跡（6・7・8・9：市報告117・158・222・229・263集）に移動する。中世になると、小郡市内でも特に遺跡が多数検出されている地域となる。11世紀後半から大保龍頭遺跡・大保横枕遺跡2で集落が形成され、1359年の大保原合戦の影響か、14世紀代より、集落域をこれらの遺跡の西側の大保西小路遺跡、三沢寺小路遺跡、三沢権道遺跡（10・11：市報告82・125集）、大保毎々遺跡（12：市報告223集）を中心とした地域へと移動する。また、中世から江戸時代初期にかけて人々の往来道であった旧筑前街道（13）が、大保区内を御勢大霊石神社前の道で南北方向に通っていることから、人々の活発な活動が想定される。近代以降に関する遺跡は、現時点ではあまり発見されていない。しかし、小郡町を起点に旧筑前街道へとつながる大保道（14）が大保区内に通っており、伊能忠敬の測量時にも御勢大霊石神社まで通ったことが測量日記や測量図より判明していることから、重要な往来道であったことが窺える。

小郡市内において中世に関する文献資料は少ないため、他の時代と比較して歴史的復元がなかなか行えていない。しかし、近年の特に大保区内における中世の遺跡の発見は、今後、この地における社会像を探求する上で大きな一助となるだろう。



第2図 大保西小路遺跡6周辺遺跡分布図（S = 1/25000）

## 第3章 遺跡の概要

大保西小路遺跡6は、周知の埋蔵文化財包蔵地の北端中央部よりに相当する。宅地造成のための道路設置工事部分のみの発掘調査であったため、南北約44m、東西約6mの非常に細長い範囲である。遺構検出面の標高は18.0m前後、現地表から0.5～0.9m下る高さで確認している。層位は、にぶい黄褐色土の下に褐灰色土が堆積する耕作土層が堆積し、その下より遺構検出面である黄褐色ローム層を検出した。

出土遺構は、中世の溝2条と土坑9基、近世以降の溝3条、その他数基のピットを検出した。検出した溝のうち、中世のL字状に曲がる溝1条の西際で検出した近世以降の溝1条と調査区北端で検出した東西方向に延びる溝1条は、昭和27年(1952)の地籍図との照合から、小字境の溝であることを確認した。全体的には、遺構密度の割に遺物はほとんど出土しなかった。

大保西小路遺跡6で検出した遺構・遺物は以下のとおりである。

### ●遺構

- ・溝 9条
- ・土坑 10基
- ・ピット

### ●遺物

- ・土師器
- ・須恵質土器
- ・青磁
- ・磁器

## 第4章 遺構と遺物

### 1. 溝

#### 1号溝(第4図、図版1)

調査区の北端よりに位置し、調査区外へと延びる。溝は、東西方向に伸びる。現状で全長約3.8m、幅0.6～1.9m、深さ最大0.7mを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。

埋土から少量の土師器片が出土しているが、図化するに至ったものは少ない。

#### 出土遺物(第6図、図版2)

1～3は土師器の皿である。底部は糸切りが施されている。2・3は体部のカーブより、口径に対して底径が小さいと想定される。4～6は土師器の鍋の口縁部片である。粘土紐貼り付け等により口縁端部を肥厚させ、内面にはハケメ調整が施されている。7は土師器の鉢の口縁部片、8は須恵質土器のすり鉢の口縁部片である。7・8伴に口縁部に行くほど器壁が厚く、底部に向かうほど器壁が薄い。8は内面に単位不明のすり目があり、外面はハケメ調整が施され、東播系須恵器と想定される。9は青磁の碗の口縁部片である。外面胴部に蓮弁の文様をもつ。10は平瓦の細片である。整形時の工具痕と思われる調整を確認している。

以上の形態的特徴より、8・9のみ13世紀中葉～14世紀前半とやや古いものの、その他は14～15世紀代に比定できる。

#### 2号溝(第5図、図版1)

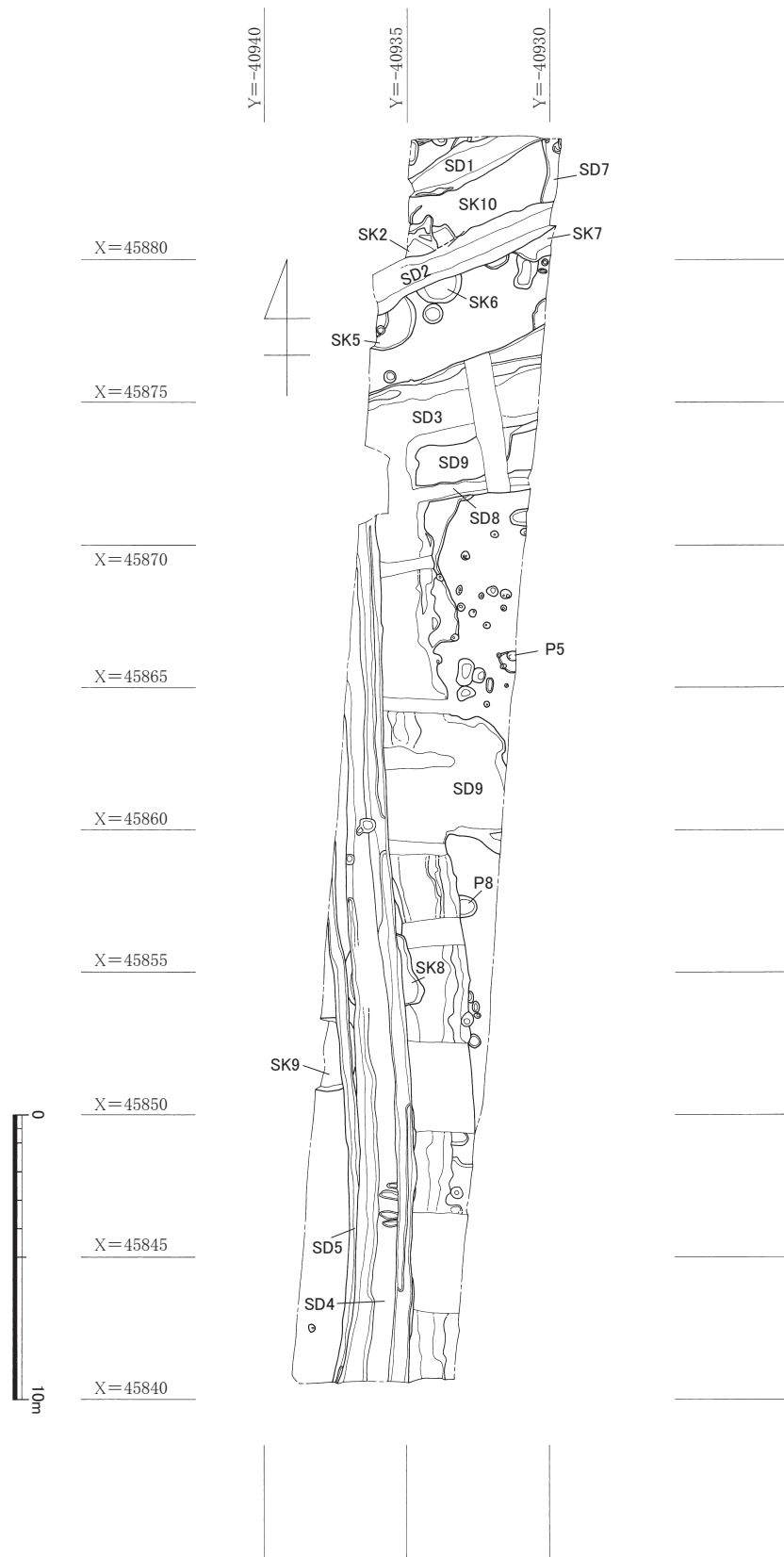
調査区の北部に位置し、7号溝、2号・5号・6号・7号・10号土坑を切り、調査区外へと伸びる。溝は、東西方向に伸びる。現状で全長約6.5m、幅約0.9～1.3m、深さ最大0.85mを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。昭和27年(1952)の地籍図との照合から、小字権道と小字舞々の小字境溝から東方向に延びた溝であると想定される。

埋土から多数の磁器片と少量の陶器片・土師器片が出土しているが、図化するに至ったものは少ない。

#### 出土遺物(第6図、図版2)

11は磁器の皿である。内面に染付と蛇の目が施されている。12～14は磁器の碗であり、銅版転写による染付が施されているものもある。13は内面に蛇の目が施されている。15は磁器の瓶である。16は陶器の灯明皿であり、底部は糸切りが施されている。

以上の形態的特徴から、19世紀末以降と想定される。



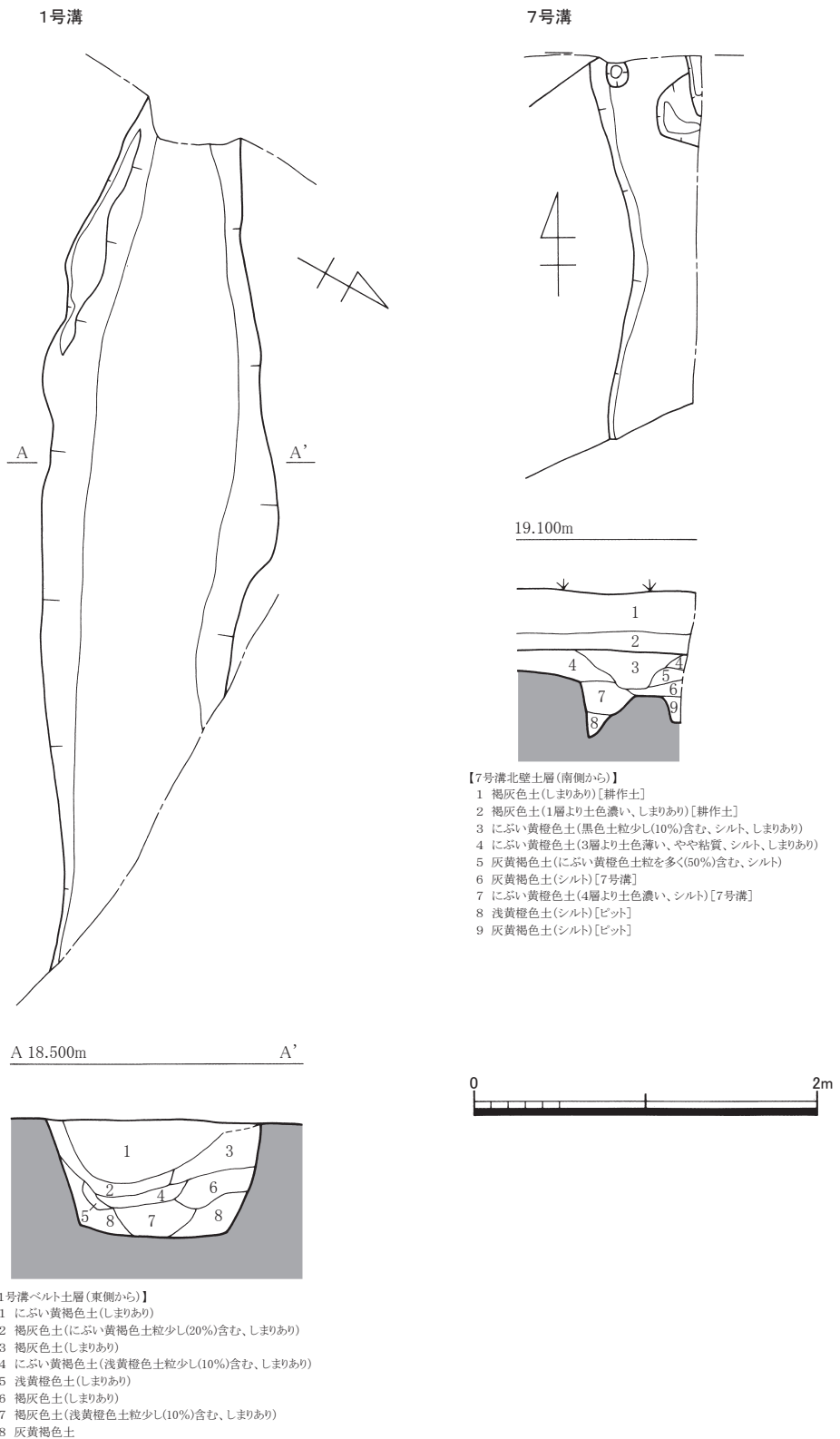
第3図 大保西小路遺跡6 遺構配置図 (S = 1 / 250)

### 3号溝 〔第7～10図〕 〔図版1〕

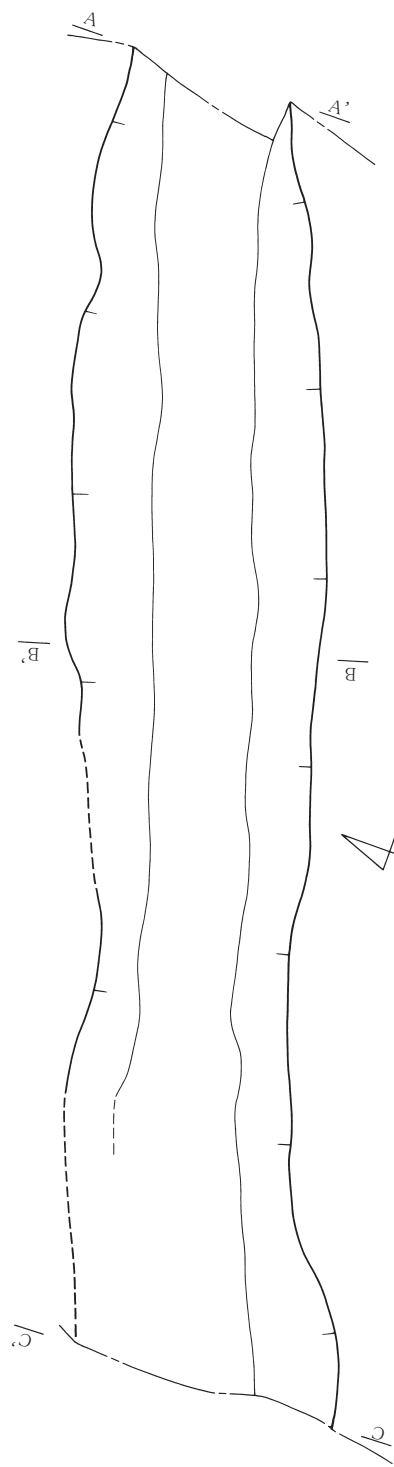
調査区の北部から南端にかけて位置し、4号溝に切られ、8号溝、9号溝、8号土坑を切り、調査区外へ延びる。溝は、L字状に延びる。現状で東西方向に全長約6m、幅約2.4～3.2m、南北方向に全長約33.3m、幅約1.6m、深さ最大0.7mを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。地山面は、黄橙色砂・灰白色粘質土であり、所々で鉄分の沈着を確認した。

遺構検出当初は、現在3号溝と捉えている部分のうち、9号溝より南側に広がる部分は、一度土を掘り返した後に堆積したような土色・堆積状況を示していることから、この部分は攪乱と捉え、3号溝は、東西方向に延びた後にL字状に折れ、9号溝へと続くと捉えていた。しかし、この攪乱部分の範囲内にも土坑のように黒褐色土が広がる範囲があったため、土坑として掘ってみ

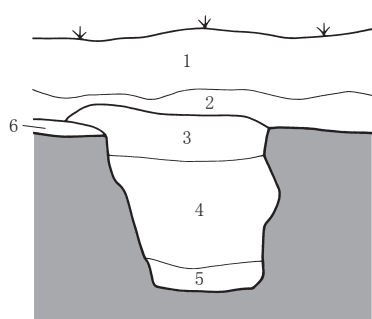
たところ、土坑の輪郭は出ず、溝の壁面の片側を検出するにいたった。このことにより、攪乱と捉えていた部分にトレンチを数か所入れ、溝の壁面を検出できるか確認したところ、溝の壁面が確認できた。また、図上より、この攪乱部分の幅が3号溝として検出した幅と類似し、伸



第4図 1号・7号溝実測図 (S=1/40)

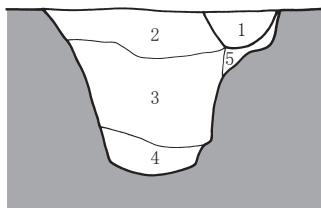


A 19.100m A'



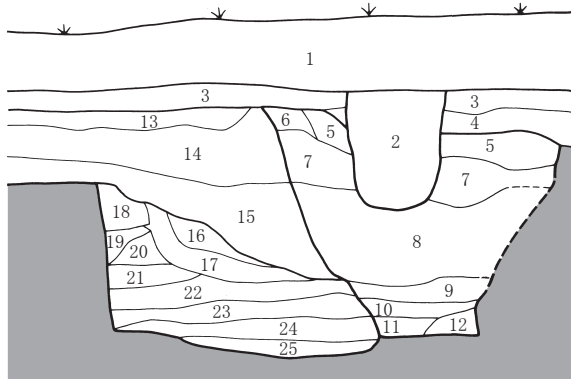
- 【2号溝東壁土層(西側から)】
- 1 褐灰色土(しまりあり) [耕作土]
  - 2 にぶい黄橙色土(やや粘質、しまりあり) [耕作土]
  - 3 灰黄褐色土(しまりあり)
  - 4 灰黄褐色土(2層より土色薄い、しまりあり)
  - 5 黒褐色土(粘質、しまりあり)
  - 6 褐灰色土(しまりあり) [7号溝]

B 18.500m B'



- 【2号溝南北ベルト土層(東側から)】
- 1 灰黄褐色土(2層より土色濃い) [ピット]
  - 2 灰黄褐色土(しまりあり)
  - 3 灰黄褐色土(2層より土色薄い)
  - 4 黒褐色土(粘質、しまりあり)
  - 5 にぶい黄橙色土

C 19.200m C'

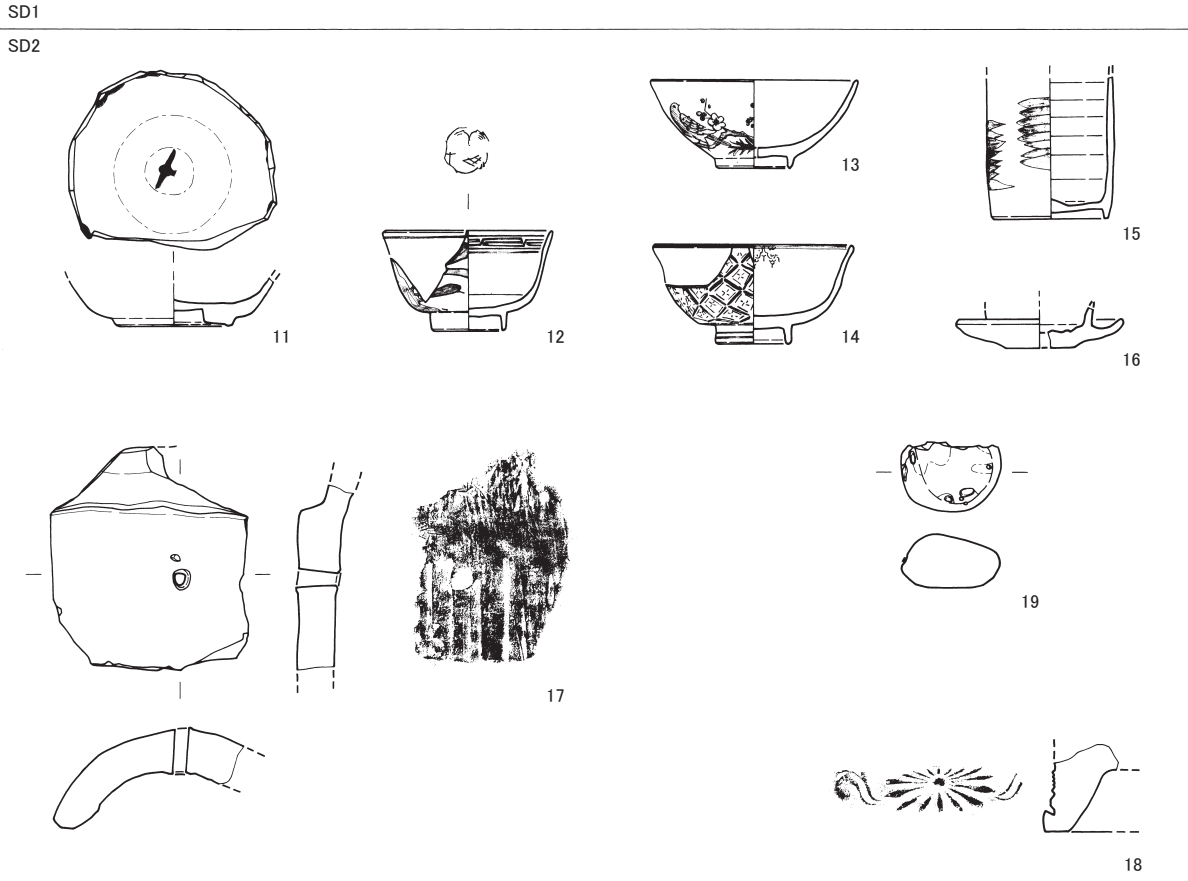
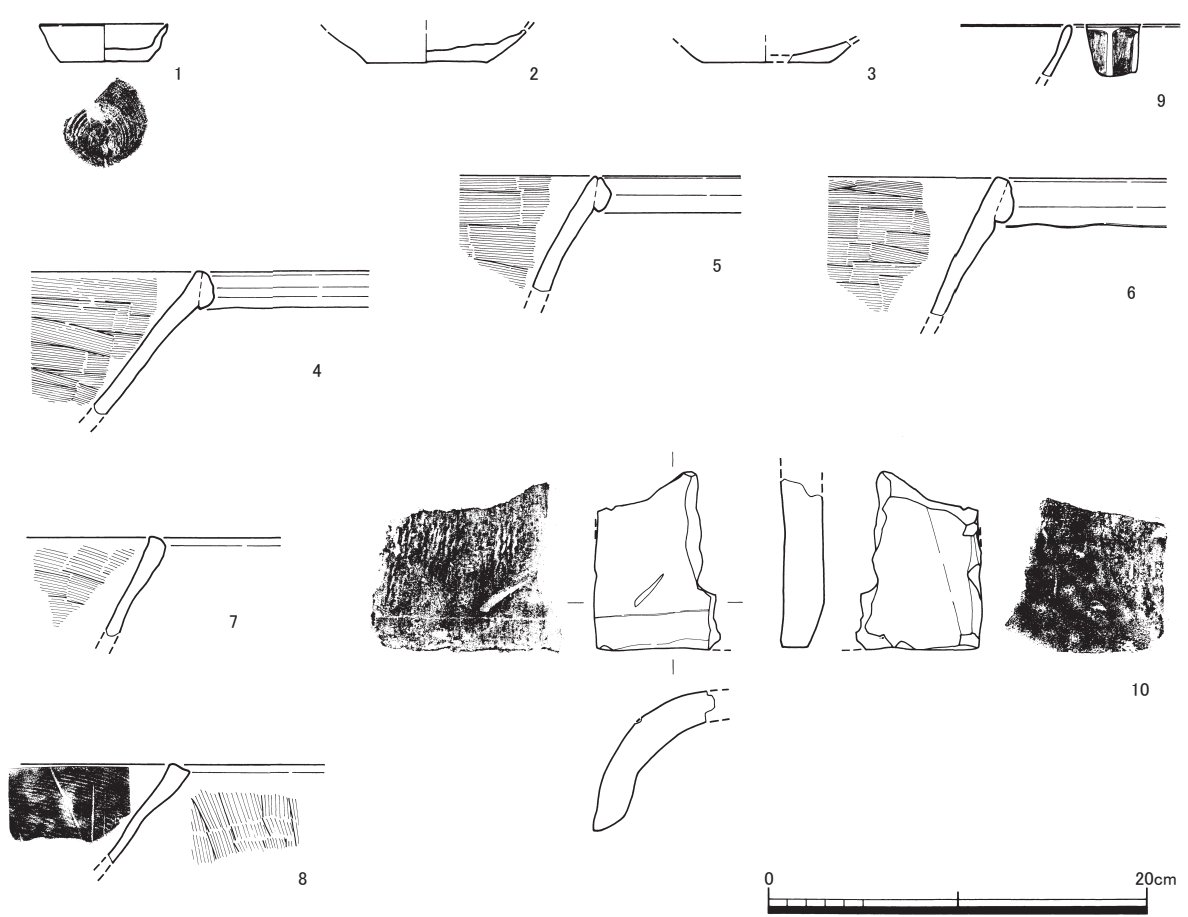


- 【2号溝・5号土坑西壁土層(東側から)】
- 1 褐灰色土 [耕作土]
  - 2 黄橙色土
  - 3 にぶい黄橙色土(褐灰色土粒を少し(30%)含む、しまりあり)
  - 4 にぶい黄橙色土(しまりあり)
  - 5 褐灰色土粒(にぶい黄橙色土粒を少し(30%)含む、しまりあり) [2号溝]
  - 6 にぶい黄橙色土 [2号溝]
  - 7 灰黄褐色土(しまりあり) [2号溝]
  - 8 灰黄褐色土(2層より土色薄い、しまりあり) [2号溝]
  - 9 黒褐色土(粘質、しまりあり) [2号溝]
  - 10 暗褐色土(粘質、しまりあり) [2号溝]
  - 11 褐灰色土(黄橙色土粒を少し(10%)含む、シルト) [2号溝]
  - 12 にぶい黄橙色土(シルト、しまりあり)
  - 13 灰黄褐色土
  - 14 褐灰色土(しまりあり)
  - 15 灰黄褐色土(シルト、しまりあり)
  - 16 灰黄褐色土(シルト) [5号土坑]
  - 17 灰黄褐色土(16層より土色薄い、橙色土粒をわずかに(5%)含む、シルト) [5号土坑]
  - 18 淡黄色土(シルト) [5号土坑]
  - 19 浅黄褐色土(シルト) [5号土坑]
  - 20 灰黄褐色土(シルト) [5号土坑]
  - 21 黄褐色土(シルト) [5号土坑]
  - 22 黒褐色土(にぶい黄橙色土粒を少し(20%)含む、シルト) [5号土坑]
  - 23 にぶい黄褐色土(シルト) [5号土坑]
  - 24 黒褐色土(黄褐色土粒をわずかに(5%)含む、シルト) [5号土坑]
  - 25 にぶい黄褐色土(黄褐色土粒を少し(10%)含む、シルト) [5号土坑]



第5図 2号溝実測図 (S = 1/40)





第6図 1号・2号溝出土遺物実測図 (S=1/4)

びる方向も3号溝から続いていることがわかった。よって、9号溝より南側に広がる攪乱と捉えていた部分は、3号溝の広がりであることがわかった。また、当初攪乱と捉えていた部分は、土層断面図（F-F' ベルト土層より南に位置するすべてのベルト）の考察より、遺構検出面より下側に10～35cmの範囲において地山面と同様な淡黄色系の土が堆積している。その堆積層の中には、地山面と同様な灰白色粘質土がブロックで混ざっていることから、この堆積層は、人為的な埋戻しが行われた可能性が考えられる。3号溝は4号溝に沿って掘られていることも考慮すると、4号溝を掘削した時の土を使って埋めた可能性も考えられようか。

埋土から大量の土師器片が出土したが、ページの都合上残りの良いもののみ図化するに至った。

#### 出土遺物（第11～14図、図版2）

第11図1～19は土師器の皿である。底部が残存するものでは全て糸切りが施されていたが、14のみヘラ切り後板ナデが施されている。19は内外面にススが付着していることから、灯明皿として使用された可能性が考えられる。第11図20は土師器の蓋で、内面にコゲが付着している。第11図21は瓦器の甕の底部片である。第11図22～25は土師器のすり鉢である。内面にすり目が施されており、22・25は4本1単位、23は5本1単位、24は不明である。第11図26～29は土師器の鉢である。26のみ碗のようにカーブを描くが、他は外斜している。第12図1～4はすり鉢の口縁部であり、1・2では片口が整形されている。1は胴部2箇所外側から内側に向かって穿孔がなされている。1～4全ての内面で4本1単位のすり目が施されている。特に、土色から2は土師器、それ以外は東播磨系の須恵質土器の可能性が高い。第12図5は須恵質土器の鉢で、東播磨系須恵質土器の可能性が高い。第12図6～10は土師器の鍋の口縁部片であり、コゲが外面を中心に付着している。口縁端部は、粘土紐貼り付け等により肥厚させ、内面にはハケメ調整が施されている。第13図1～3は湯釜を模した土師器の鍋の胴部片であり、外面にはコゲが付着している。第13図4・5は瓦質土器の火鉢である。外面胴部の突帯で区切られた空間には、花文が押されている。第13図6は陶器の甕であり、口縁端部は玉縁状を呈する。第13図7・8は青磁の皿である。第13図9・10は青磁の碗であり、内面見込みに草花文をもち、10は外面に蓮弁文様ももつ。第14図1は平瓦の細片である。内外面に工具調整痕が見られる。第14図2～4は砥石である。現状で砥面を2は4面、3は2面、4は1面確認している。第14図5は石臼の細片である。四角い形態をした芯棒受け穴が中心軸よりずれた位置にあけられていることから上臼と想定される。内面には断面U字形の主溝が5本1単位で刻まれている。第14図6は黒曜石製の剥片、7は黒曜石製の石核である。

以上の形態的特徴より、第11図14や第12図1・2～5、第13図7～10は13世紀中葉～14世紀前半とやや古いもののその他は14～15世紀代に比定できる。

#### 4号溝（第15図、図版1）

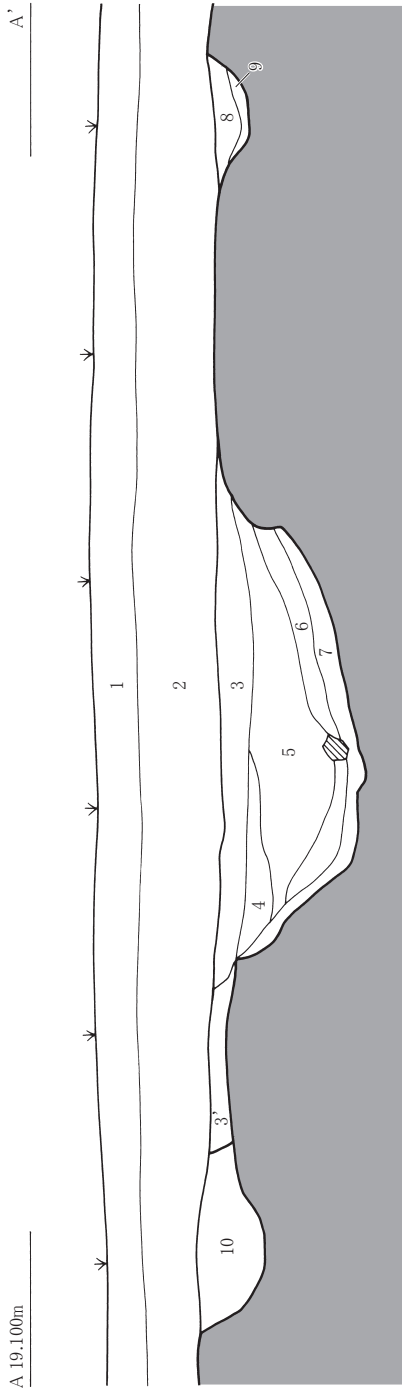
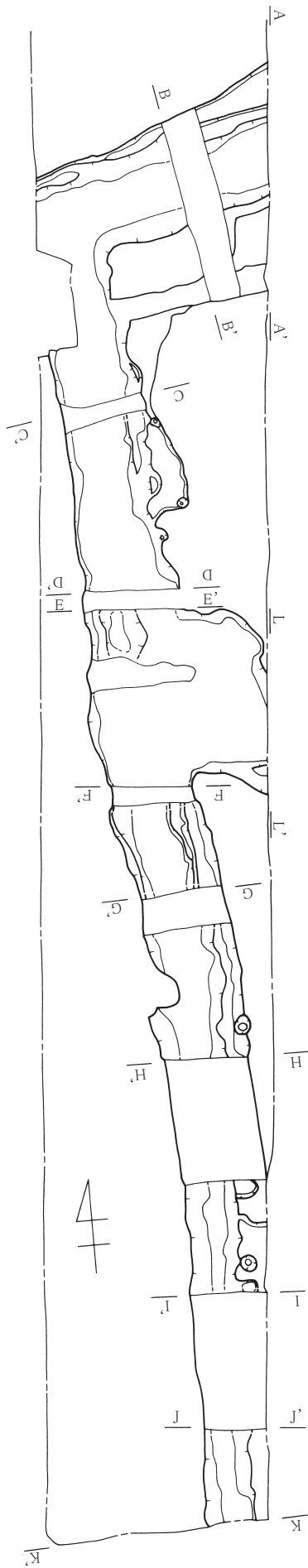
調査区の中央部に位置し、5号溝、3号溝、8号土坑、9号土坑を切り、調査区外へ伸びる。溝は、南北方向に伸びる。現状で全長約30.1m、幅北側で1.1m、南側で1.9m、深さ北側で0.35m、南側で0.6mを測り、断面形状は逆台形を呈する。このことから、北側は本来の遺構検出面から削平を受けている可能性が高いと言える。埋土は、水平堆積の様相を示す。溝の内部は、東辺・西辺沿いに幅0.56～0.73mの細い溝が走っている。このことから、何度か溝が掘り直されていた可能性が考えられる。昭和27年（1952）の地籍図との照合から、小字権道と小字舞々の小字境溝であると想定される。

埋土から少量の磁器片や土師器片が出土しているが、図化するに至ったものは少ない。

#### 出土遺物（第16図）

1は磁器の皿の口縁部片であり、外面は口縁部から垂れるように釉薬が施されている。2～4は磁器の碗の底部片である。3・4は銅版転写による染付が施されている。

以上の形態的特徴から、19世紀末以降に比定できる。



- 【3号溝 A-A'土層(西側から)】
- 1 褐灰色土〔耕作土〕
  - 2 灰黄褐色土〔耕作土〕
  - 3 灰黄褐色土(シルト)
  - 3' 灰黄褐色土
  - 4 灰黄褐色土(浅黄褐色土粒を少し(10%)含む、シルト)
  - 5 におろ黄褐色土(シルト)
  - 6 暗褐色土
  - 7 浅黄褐色砂・暗褐色土
  - 8 におろ黄褐色土(シルト)
  - 9 におろ黄褐色土(シルト)
  - 10 灰黄褐色土(2層より土色明い、シルト)

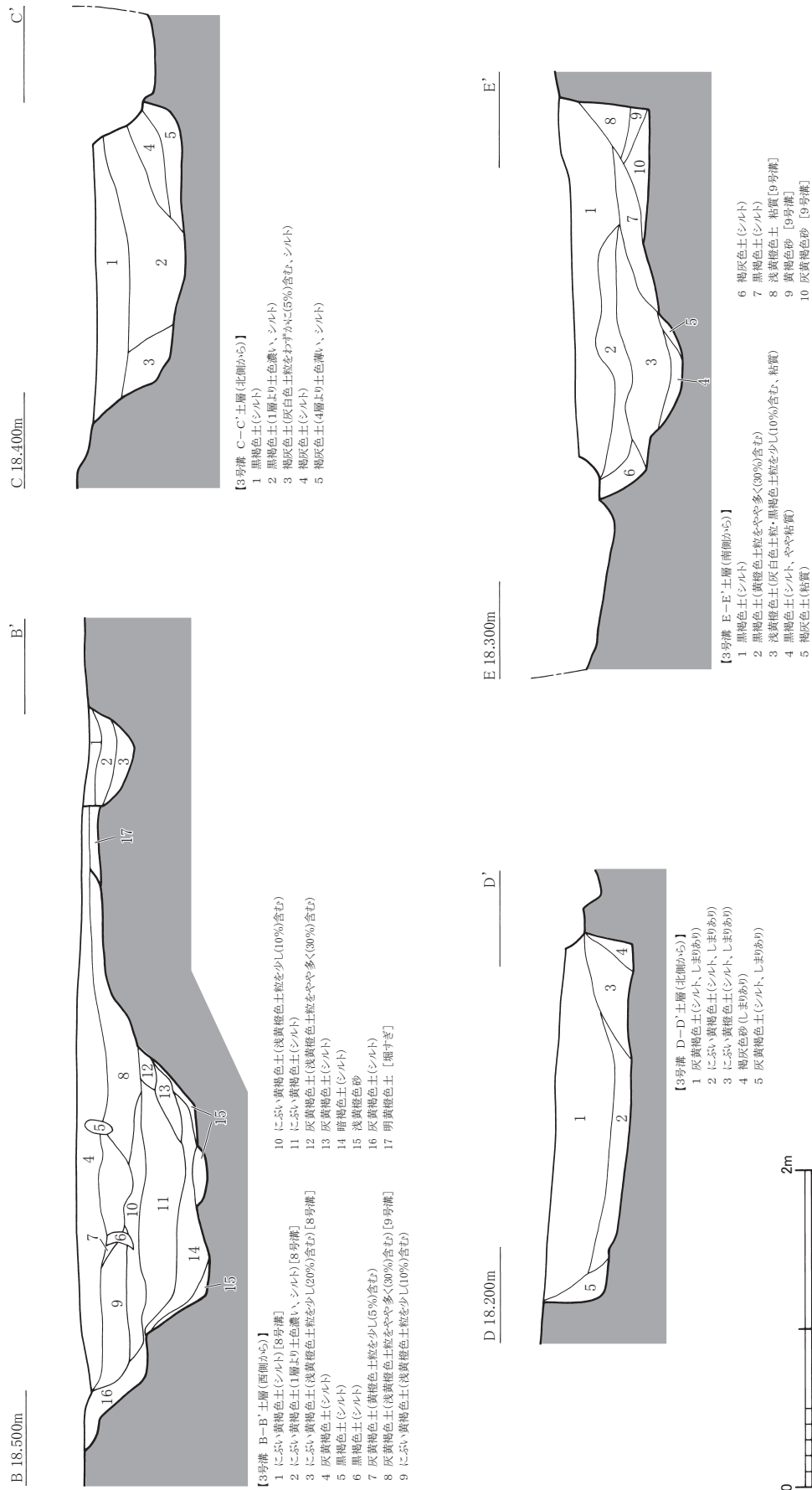


第7図 3号溝実測図(平面: S = 1/160、土層断面: S = 1/40)

5号溝  
〔第15図〕  
〔図版1〕

調査区の中央部に位置し、4号溝に切れ、8号土坑、9号土坑を切り、調査区外へ伸びる。溝は、南北方向に伸びる。現状で全長約19.2m、幅約0.45m、深さ北側で約0.12m、南側で約0.3mを測り、断面形状は逆台形を呈する。このことから、北側は本来の遺構検出面から削平を受けている可能性が高いと言える。埋土は、水平堆積の様相を示す。溝は、9号土坑を切るあたりより南側では、4号溝により溝の半分からそれ以上を切られていた。

埋土から土師器の皿や鍋の小片が出土したが、小片の為、図化するに至ったものは少ない。



第8図 3号溝土層断面実測図① (S=1/40)

## 出土遺物

(第16図)

5・6は土師器の皿の底部片であり、底部には糸切りが施されている。7は青磁の碗の口縁部片であり、外面には蓮弁文様をもつ。

以上の形態的特徴より、13世紀中葉～14世紀前半に比定できる。

## 7号溝

〔第4図〕  
図版1

調査区の北端部東辺に位置し、2号溝に切れ、調査区外へ伸びる。溝は、南北方向に伸びる。現状で全長約2.2m、幅約0.35～0.6m、深さ最大0.13mを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。

埋土から少量の遺物が出土しているが、小片のため図化するに至らなかった。



第9図 3号溝土層断面実測図② (S=1/40)

## 8号溝

(第3図)

調査区の中央部東辺に位置し、3号溝に切られ、調査区外へ伸びる。溝は、東西方向に伸びる。現状で全長約3.7m、幅約0.52～0.7m、深さ最大0.3mを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。

埋土から少量の遺物が出土しているが、小片のため図化するに至ったものは少ない。

### 出土遺物

(第16図)

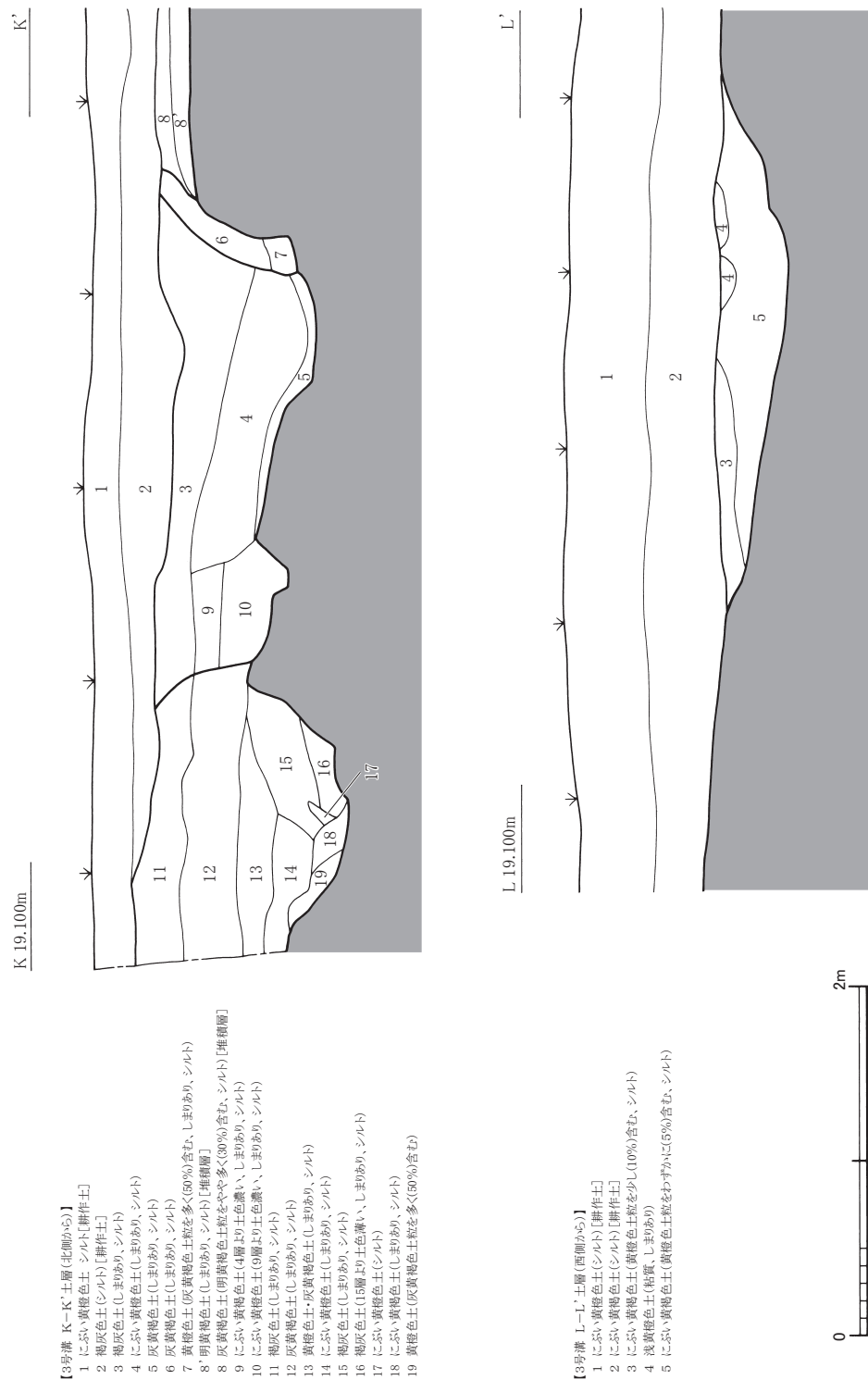
8・9は土師器の皿であり、底部は糸切りが施されている。10は土師器の鍋である。口縁端部は粘土貼り付けにより肥厚し、内面にはススが付着しているとともに、ハケメ調整が施されている。

以上の形態的特徴から14～15世紀に比定できる。

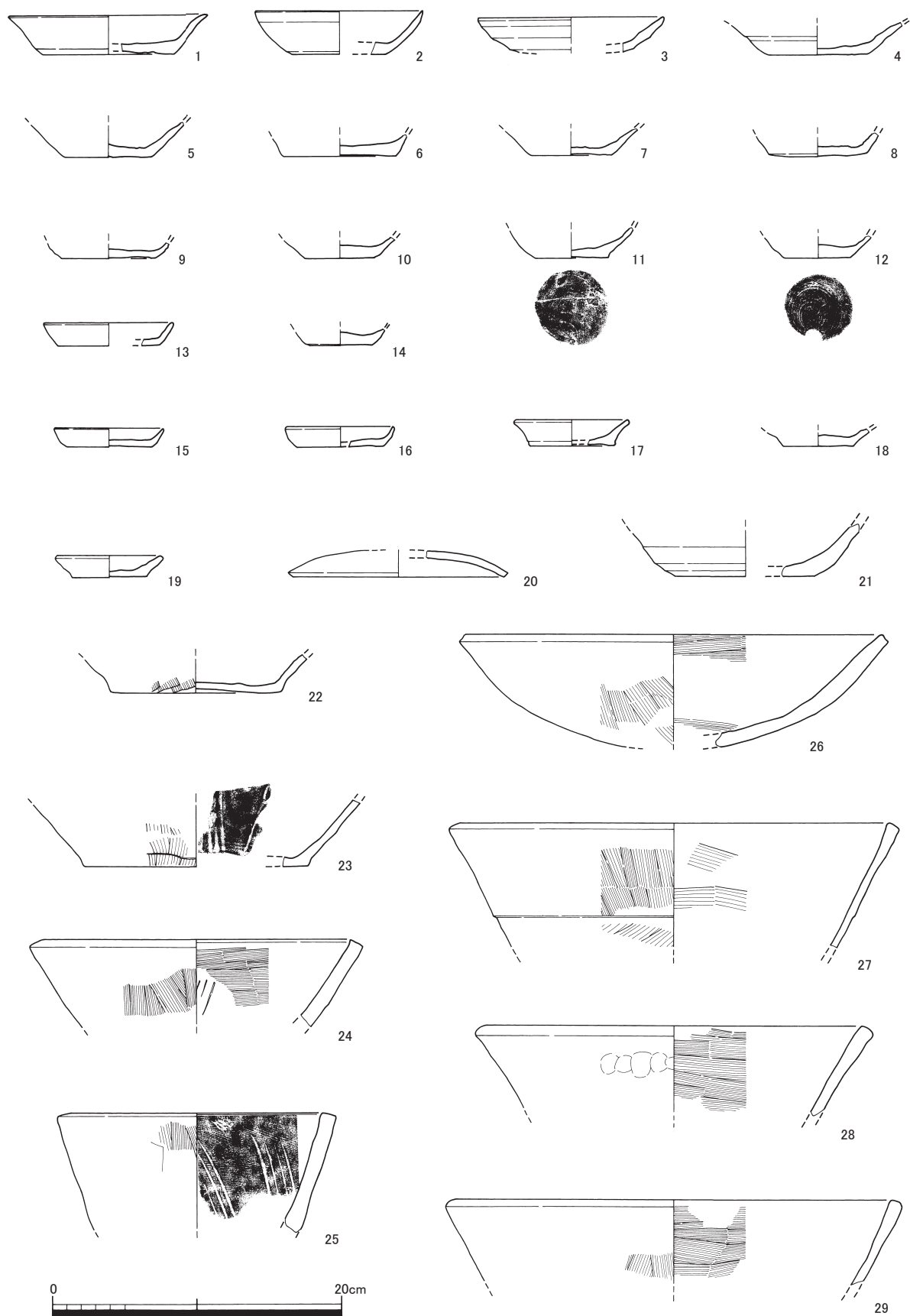
## 9号溝(第3・8図)

調査区の中央部東辺から中央にかけて位置し、3号溝に切られる。現状で全長約2.1m、幅約4.0m、深さ最大0.47mを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は、水平堆積の様相を示す。地山面は、黄橙色砂・灰白色粘質土である。遺構検出当初は、3号溝がコの字状に折れた部分につながると捉えていた。しかし、E-E'ベルトの土層断面を検討した結果、9号溝が古く、南北方向に延びる3号溝に切られていることがわかった。

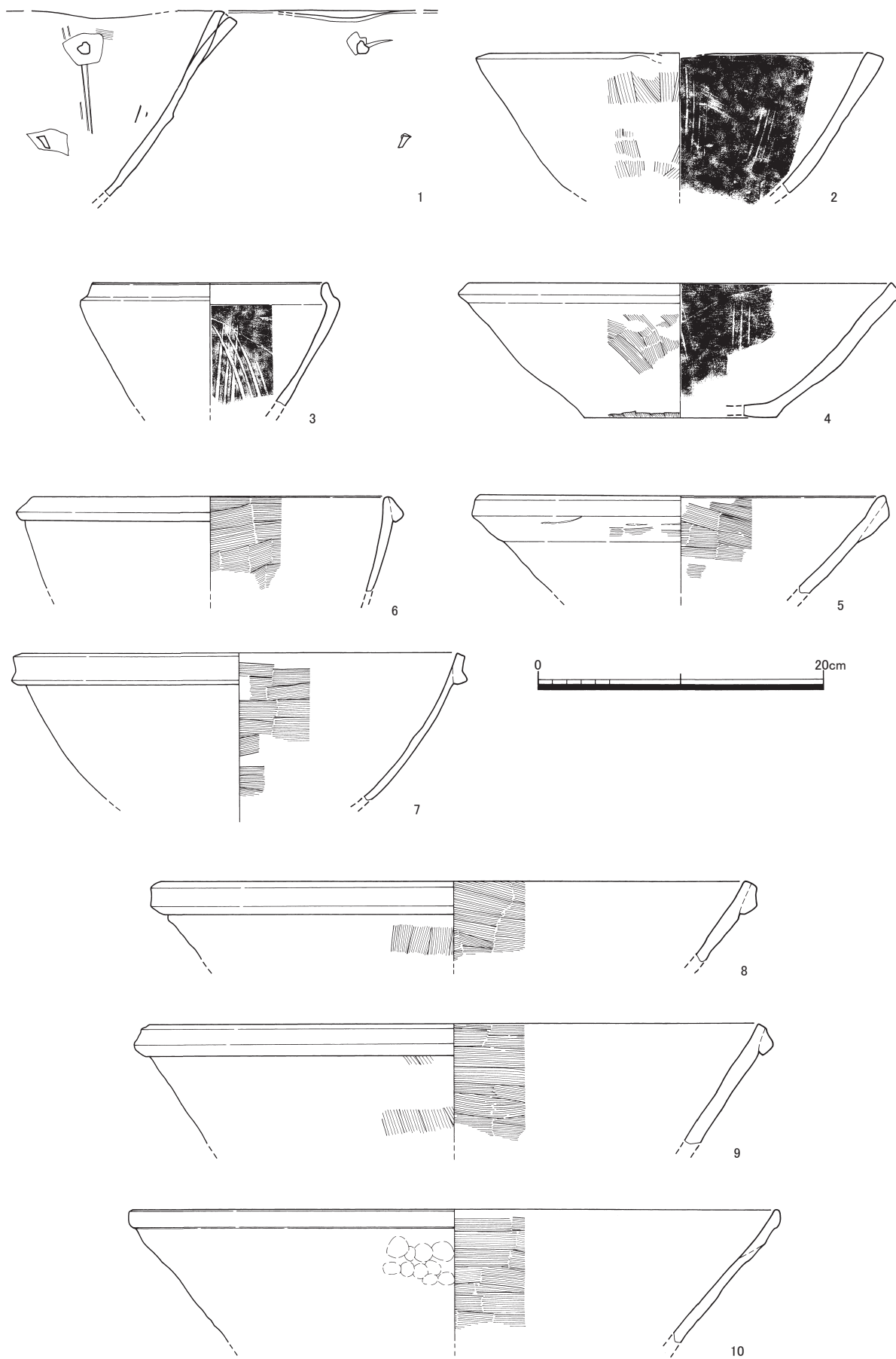
埋土から少量の糸切りが施された土師器の皿の小片が出土しているが、図化するに至ったものは少ない。



第10図 3号溝土層断面実測図③ (S=1/40)

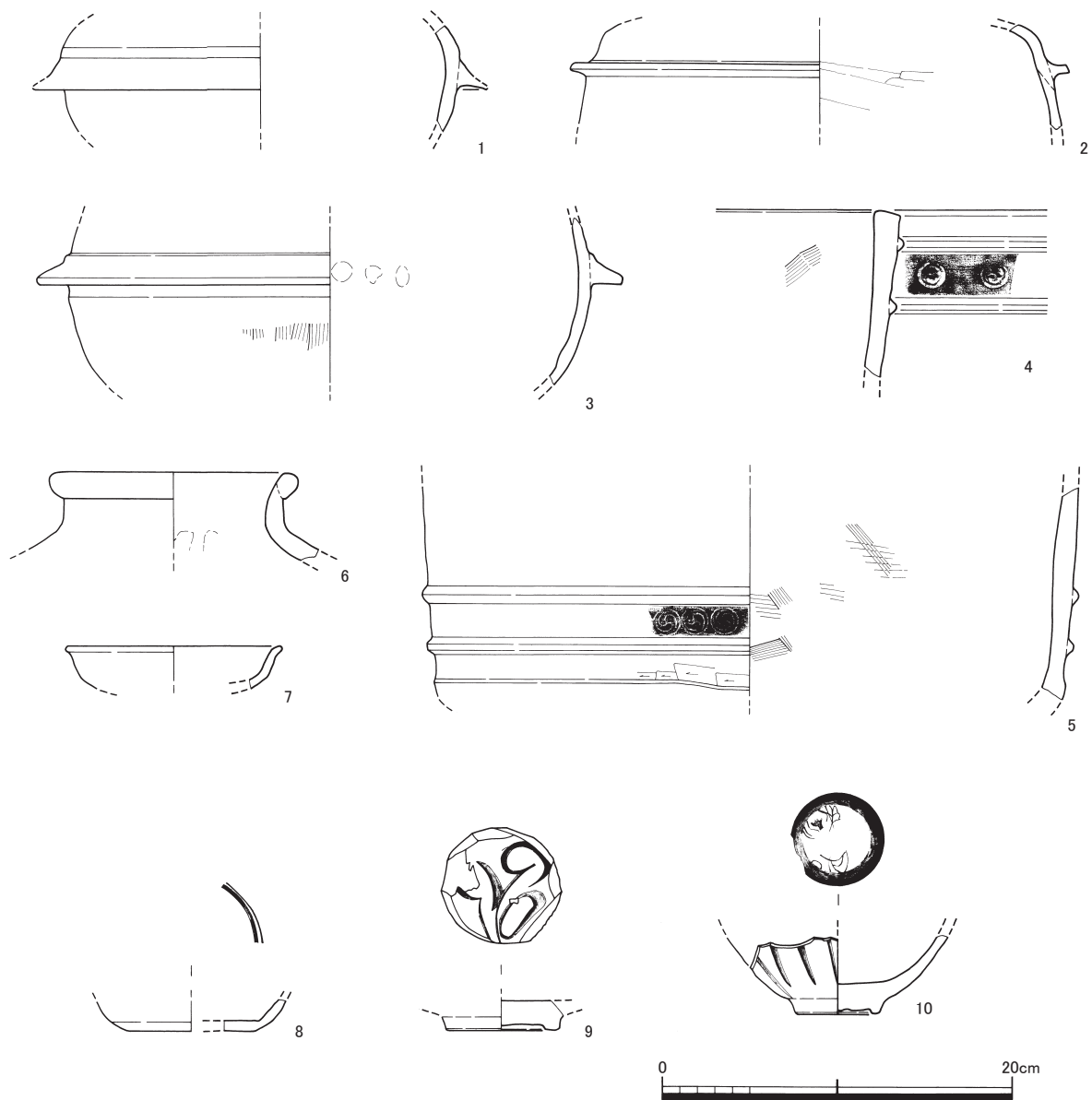


第 11 図 3号溝出土遺物実測図① (S=1/4)



第 12 図 3号溝出土遺物実測図② (S=1/4)





第13図 3号溝出土遺物実測図③ (S=1/4)

## 2. 土坑

### 2号土坑 (第17図)

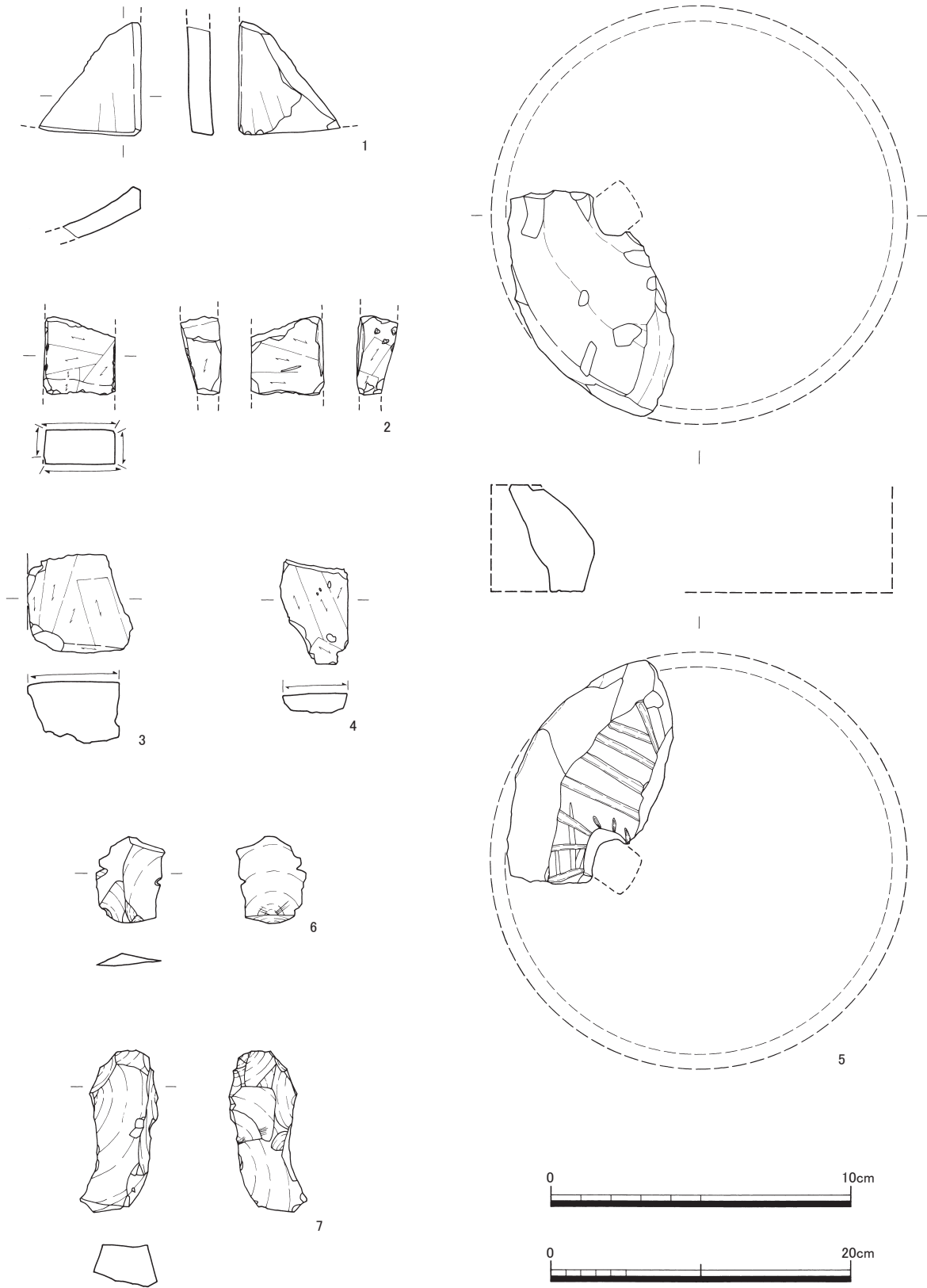
調査区の北部西辺において検出した土坑であり、10号土坑を切る。平面形は、現状114cm×110cmの楕円形を呈し、深さは最大64cmを測る。

遺物は釉薬のかかった陶器片が数点出土したが、小片のため図化するに至ったものは少ない。

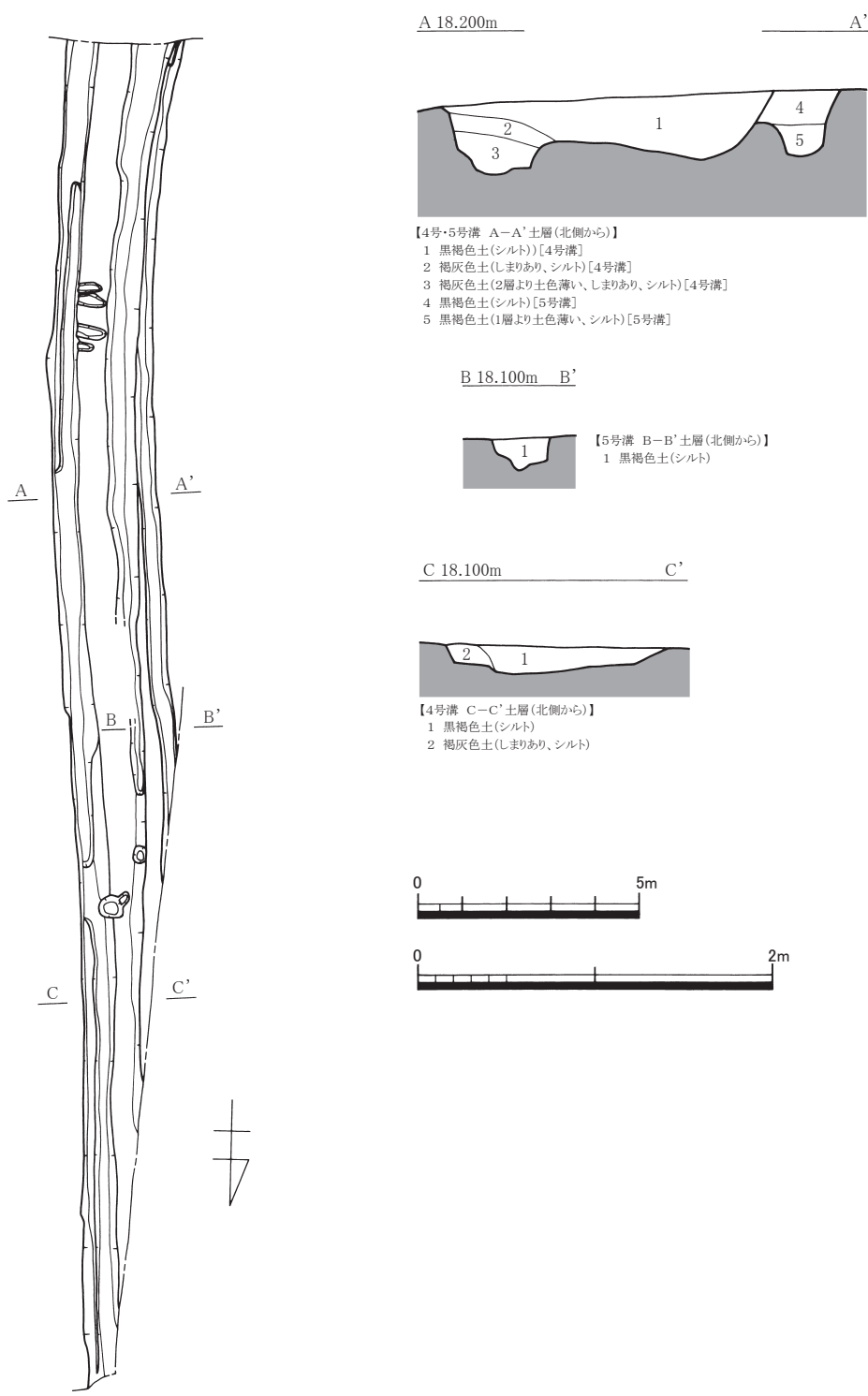
### 出土遺物 (第16図、図版2)

11は弥生土器の甕の底部片である。底部は平底であり、外面にハケメ調整が施されていることから、弥生時代中期に比定できる。12は丸瓦の細片である。頂部に瓦同士を重ねる際の固定に使用したと想定される穿孔を1箇所確認している。形態的特徴より、19世紀末以降に比定できる。

以上より、11は混ざり込みであり、12がこの遺構使用時期に相当すると考えられる。



第 14 図 3号溝出土遺物実測図④ (6・7 : S=1/2、その他 : S=1/4)

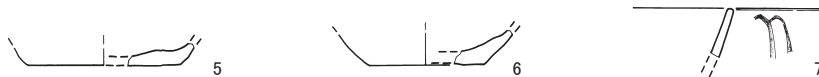


第 15 図 4号・5号溝実測図(平面：S=1/160、土層断面：S=1/40)

SD4



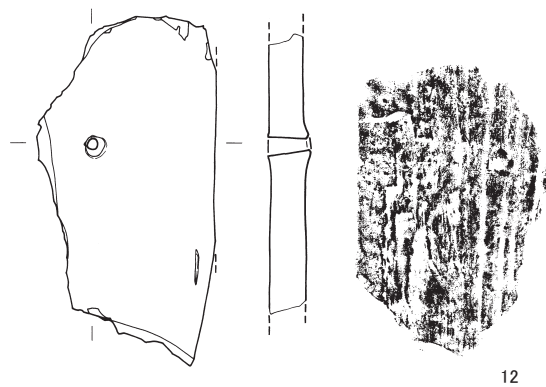
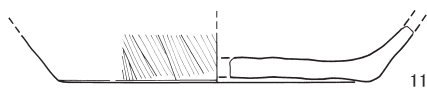
SD5



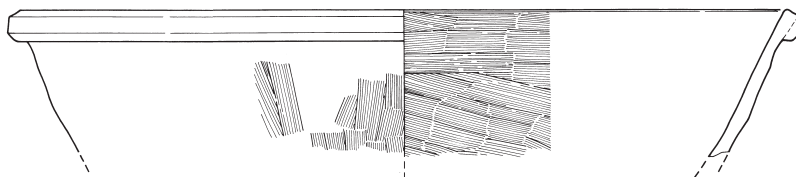
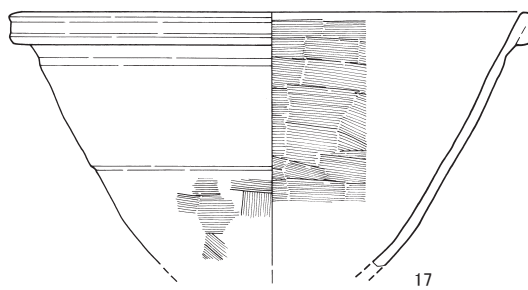
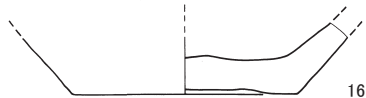
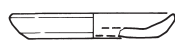
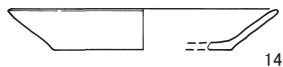
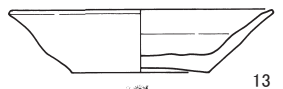
SD8



SK2

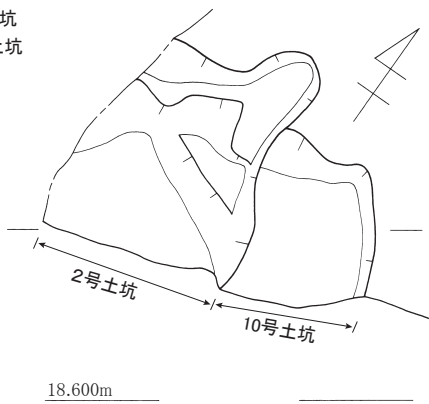


SK5

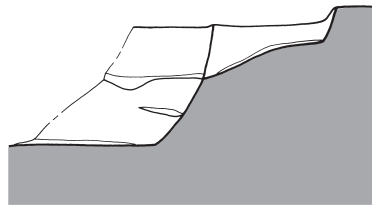


第16图 4号·5号·8号溝、2号·5号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)

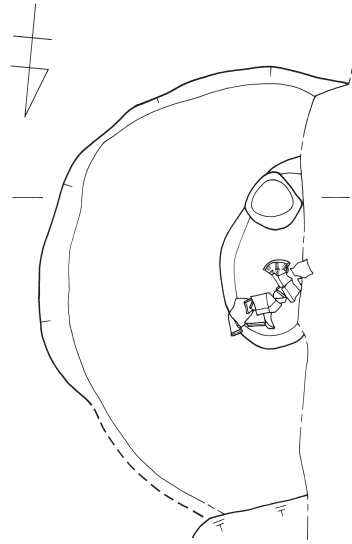
2号土坑  
10号土坑



18.600m



5号土坑

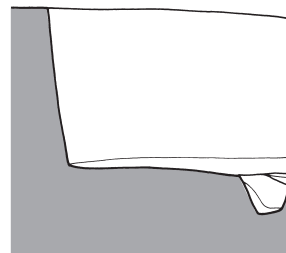


18.600m

7号土坑



18.600m



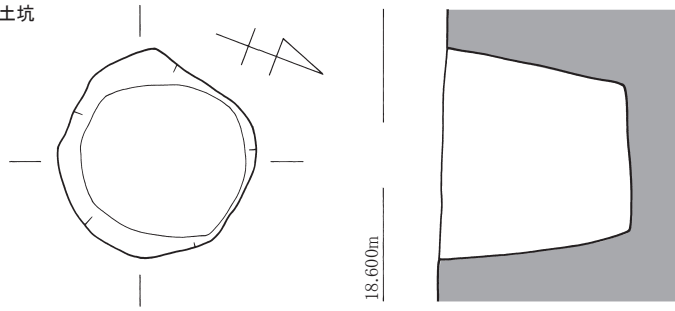
第 17 図 2号・5号・7号・10号土坑実測図 (S=1/40)

5号土坑 (第5・17図、図版1)

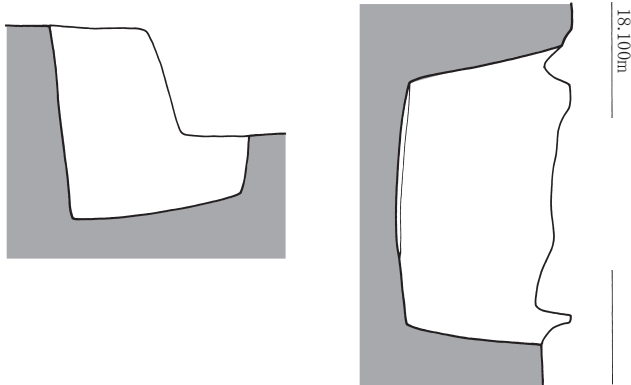
調査区の北部西辺において検出した土坑であり、2号溝に切られる。平面形は、現状 250cm×130cmの楕円形を呈する。遺構検出面より深さ 33cmのところまで土師器がまとまって出土し、その後深さ 65cmのところまでいよいよ黄橙色土による整地層を確認した。第5図[2号溝・5号土坑西壁土層]の22層より下層では、いよいよ黄橙色土と黒褐色土が互層になっていることから、井戸である可能性が高いと考えられた。この時点で、遺構の性格が判明したため、遺構検出面より深さ 90cmの整地層面で掘るのを止めた。

埋土から土師器の皿や鍋の破片を多数出土したが、小片の為図化するに至ったものは少ない。

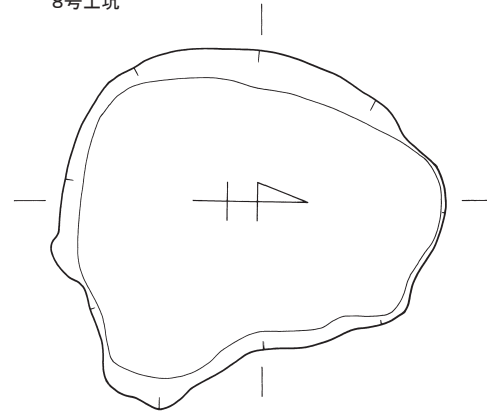
6号土坑



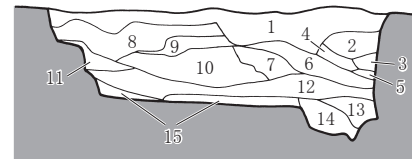
18.600m



8号土坑



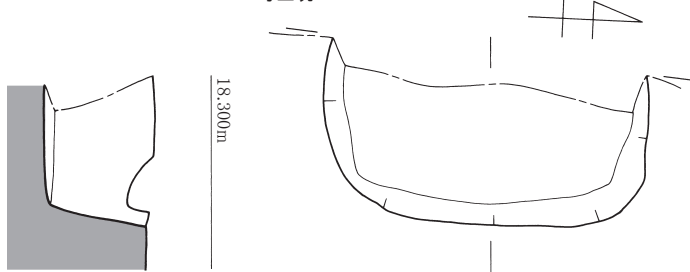
18.100m



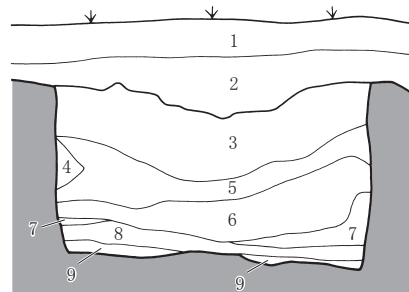
【8号土坑南北ベルト土層(東側から)】

- 1 灰黄褐色土(しまりあり、シルト)
- 2 灰黄褐色土(1層より土色薄い、しまりあり、シルト)
- 3 褐灰色土(しまりあり、シルト)
- 4 黒褐色土
- 5 淡黄色土(しまりあり、シルト)
- 6 浅黄褐色土(黒褐色土粒を少し(20%)含む、しまりあり、シルト)
- 7 黒褐色土(しまりあり、シルト)
- 8 にぶい黄橙色土(しまりあり、シルト)
- 9 黒褐色土(にぶい黄橙色土粒を少し(10%)含む、しまりあり、シルト)
- 10 にぶい黄橙色土(しまりあり、シルト)
- 11 淡黄色土(灰黄褐色土粒を少し(10%)含む、しまりあり、シルト)
- 12 灰黄褐色土(しまりあり、シルト)
- 13 淡黄色土(灰黄褐色土粒を少し(20%)含む、粘質、しまりあり)
- 14 灰黄褐色土(しまりあり、シルト)
- 15 灰黄褐色土(14層より土色薄い、しまりあり、シルト)

9号土坑



18.200m



【9号土坑西壁土層(東側から)】

- 1 にぶい黄橙色土【耕作土】
- 2 褐灰色土【耕作土】
- 3 灰黄褐色土(しまりあり、シルト)
- 4 黄橙色土・黒褐色土(しまりあり、シルト)
- 5 黒褐色土(しまりあり、シルト)
- 6 にぶい褐色土(黒褐色土粒を少し(5%)含む、しまりあり、シルト)
- 7 黄褐色土(黒褐色土粒を少し(15%)含む、しまりあり、シルト)
- 8 にぶい黄橙色土(黄褐色土粒を少し(10%)含む、しまりあり、シルト)
- 9 淡黄色砂(しまりあり)



第 18 図 6号・8号・9号土坑実測図 (S=1/40)

### 出土遺物（第 16 図、図版 2）

13～15 は土師器の皿である。底部は 13・15 のみ糸切り後板ナデ、14 は糸切りが施されている。13・14 は口径に対して底径が小さい。また、15 はつまみだしたような胴部に器高が高くないことから轆轤成形による製作が想定される。13 は外面にタール状の物質が付着しており、内面にススが付着していることから灯明皿として使用された可能性が想定される。16 は須恵質土器のすり鉢の底部片である。内面にはススが付着し、4 本 1 単位のすり目が施されている。17・18 は土師器の鍋である。口縁端部は、粘土紐貼り付けにより肥厚させ、内外面伴にハケメ調整を施している。鍋の機能が想定できるかのように、17 は外面に、18 は内外面にコゲが付着している。

以上の形態的特徴より、17・18 のみ 14～15 世紀とやや新相を呈するが、そのほかは 13 世紀中頃に比定できる。

### 6号土坑（第 18 図、図版 1）

調査区の北部西側よりにおいて検出した土坑であり、2号溝に切られる。平面形は、154cm×162cmの楕円形を呈する。遺構検出面より黒褐色土が約 90cm 堆積した後、黒褐色土と淡黄橙色砂の互層が、実測図面で記録した下面まで少なくとも続いていることから、井戸である可能性が高いと考えられた。遺構の性格が判明したので、遺構検出面より深さ約 150cm のところで安全性の確保のため掘るのを止めた。

埋土から遺物は検出できなかった。

### 7号土坑（第 17 図）

調査区の北部東辺において検出した土坑であり、2号溝に切られている。平面形は、現状 120cm×66cmの不整形を呈し、深さは最大 20cmを測る。

埋土から遺物は検出できなかった。

### 8号土坑（第 18 図、図版 1）

調査区の中央部において検出した土坑であり、3号・4号・5号溝に切られる。平面形は、300cm×280cmの楕円形を呈する。遺構検出面より約 75cm 堆積した後、明黄橙色粘質土と褐灰色砂が互層に出土しており、所々に鉄分の沈着がみられたことから、井戸である可能性が高いと考えられた。遺構の性格が判明したのと、調査期限が迫ってきていたことから、遺構検出面より深さ 140cm のところで掘るのを止めた。

埋土から土師器の皿や鍋の破片を数点検出したが、小片の為図化するに至ったものは少ない。

### 出土遺物（第 19 図）

1 は土師器の皿の底部片である。底面は糸切りが施されている。胴部は軽くつまんだような形態をしていることから、轆轤成形により製作されたと想定される。2 は瓦質土器の火鉢の口縁部片である。外面胴部の突帯に挟まれた空間には、花文が押されている。3 は須恵質土器のすり鉢の口縁部片である。口縁部は片口部分も確認している。内面にはススが付着し、4 本 1 単位のすり目が施されている。

以上の形態的特徴より、14～15 世紀代に比定できる。

### 9号土坑（第 18 図、図版 1）

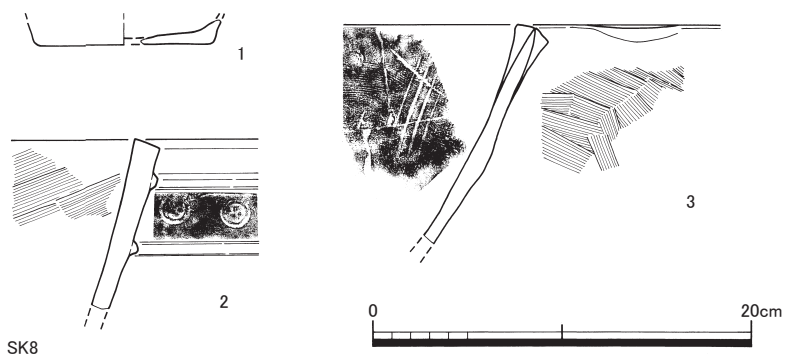
調査区の中央部西辺において検出した土坑であり、4号溝、5号溝に切られる。平面形は、現状 254cm×110cmの楕円形を呈する。遺構検出面より深さ 100cm、西壁土層断面図より遺構の掘り込みが 130cm のところで淡黄色色砂による整地層（9 層）を確認した。この整地層は、10cm 位堆積しており、この下からはにぶい黄橙色砂が 20cm 位堆積していた。そして、これより下層に鉄分を含む層が堆積していることから、井戸である可能性が高いと考えられた。遺構の性格が判明したのと、調査期限が迫ってきていたことから、遺構検出面より深さ約 100cm の整地層（9 層）検出面で、掘るのを止めた。

遺物は土師器の皿の小片が数点出土したが、小片のため図化するに至ったものは少ない。

### 出土遺物（第19図、図版2）

4～6は土師器の皿である。底部は、4のみ糸切りが施され、5・6は糸切り後板ナデが施されている。胴部はつまみ出したような形態で器高も低いことから、轆轤成形により製作されたと想定できる。7は青磁の碗の底部片である。内面には蛇の目が施されている。

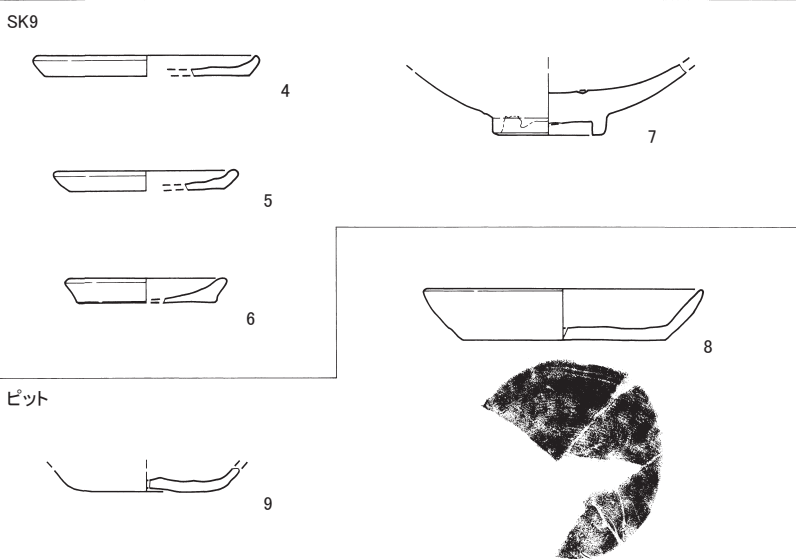
以上の形態的特徴より、13世紀後半～14世紀前半に比定できる。



### 10号土坑（第17図）

調査区の北部西側よりにおいて検出した土坑であり、2号溝、2号土坑に切られる。平面形は、現状80cm×70cmの隅丸方形を呈し、深さは最大16cmを測る。

埋土から遺物は検出できなかった。



第19図 8号・9号土坑、ピット出土遺物実測図（S=1/4）

### 3. ピット

調査区中央部東寄りを中心にピットを確認した。そのうち、遺物が出土したピットは9基存在し、時代も中世が中心である。図化するに至ったものは少ない。以下では、図化できた出土遺物について記す。

#### 出土遺物（第19図）

8はP5から出土した土師器の皿である。底部は糸切り後板押しが施されている。

9はP8から出土した土師器の皿である。底部は糸切りが施されている。



## 第5章 まとめ

今回の調査で検出した遺跡に対して評価をするにあたり、まず、各遺構の時期的変遷についてまとめたい。大保西小路遺跡は、これまで5次の調査が行われてきたが、その成果の多くは今回の調査区同様に中世に相当する時期であり、今回発見した遺構も多くは同様の時期に相当する。また、調査区の8割以上を溝が占めており、これらの溝の性格付けも必要であるので、その見当も行うこととする。

### 1. 大保西小路遺跡6の遺構の時期とその変遷について

今回の調査で検出した遺構のうち、遺構の切り合い関係や出土遺物により時期が明確なものは下記のとおりである。なお、今回の調査では、遺構の切り合い関係のみにより時期を特定したものは見当たらなかった。

12世紀中頃～後半	: 9号土坑
13世紀中頃～14世紀	: 5号溝、8号溝、8号土坑
13世紀中頃～15世紀	: 1号溝、3号溝、5号土坑
19世紀末～	: 2号溝、4号溝

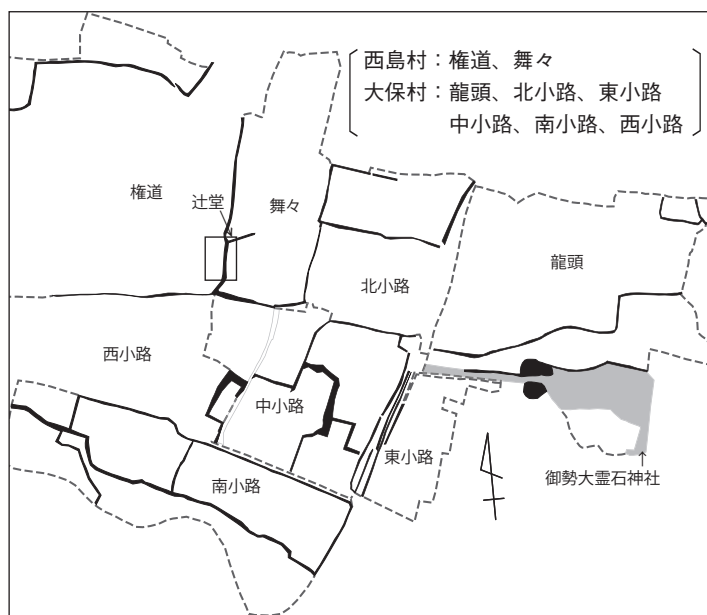
次に、今回の調査区の遺構変遷について12世紀以降を対象に時代順に追う。まず、12世紀中頃～後半より深さ1mを超える大型土坑が掘り込まれるようになり、この状況は15世紀まで続く。13世紀中頃には、8号・9号土坑は埋まり、1号・3号・5号溝が機能し始める。これらは、少なくとも15世紀に至るまで継続して使用されていったことが出土遺物より想定される。19世紀末以降になると、3号溝と5号溝の間に4号溝を掘削する。3号溝のD—D'ベルト土層以南では、必ず遺構検出面で地山を掘り返したような土を確認していることから、4号溝を掘削した際に掘り出した土を3号溝に投げ入れた可能性が想定される。よって、3号溝から出土する遺物の多くは13世紀中頃～15世紀に相当するものの、19世紀末以降に4号溝を掘削するまで使用していた可能性も考えられよう。

## 2. 大保西小路遺跡6で検出された溝について

現地で発掘調査を実施していた際、小郡市郷土史研究会の方より、「調査地の南側は江戸時代頃の「三沢村」と「大保村」の境であり、かつては大溝が東西方向に走っていた」こと、また、「江戸時代頃の村境である東西に伸びる大溝から小字「舞々」と「権道」の境にそって溝が地籍図で見受けられるので、現在発掘調査で検出している溝に相当する可能性があるのではないか」というご教授をいただいた。現地調査を行っている際から、4号溝の調査区南側で見られるカーブがご指摘いただいた地点の溝の形態と類似していることから可能性を想定していたが、図面整理を行う中で、19世紀末以降に比定できると考えられる4号溝が、ご指摘いただいた小字境の溝と一致した。よって、4号溝は小字「舞々」と「権道」の境溝であることがわかった。また、4号溝の歴史的性格と地点が分かったことから、同じく19世紀末以降に比定できる2号溝は小字境から東側に少し伸びている溝であると推定できた。

では、4号溝に切れ、且つ、併行して南北に伸びる13世紀中頃～15世紀に比定できる3号・5号溝の歴史的性格が問題となってくる。まず、小字名に着目したい。というのも、地名はなかなか変化しないものであるからだ。本調査地点周辺の小字名は第20図の記載のとおりである。小郡市史によれば、「舞々」は神社に奉納する舞などの神事が行われた場所を示し、「北小路・西小路・東小路・中小路・南小路」は、『延喜式』の神名帳に記される式内社である御勢大霊石神社の西側に広がる地域で、小路という文字が小道・巷の意味を指すことから、平安時代京からきた大宮司家の街づくりによるものと推測されている。実際、昭和27年の地籍図を確認しても、溝の区割りから小字「中小路」付近には居館が営まれていた可能性が推定できる。以上より、第20図に示した小字名は、平安時代より続いている可能性が想定できる。すると、19世紀末以降の小字境である4号溝に切れ併行する3号・5号溝は、4号溝と同様に小字境として機能していた可能性がある。このことは、3号溝検出遺構面より下側に約10～35cmにわたって地山を掘り返したような土が堆積していたことから、4号溝を掘削する際に出た土で3号溝を埋めたと想定できることから裏付けられる。

本調査地の北隣には現在も辻堂がある。辻堂は道路辻に立てられた仏堂で、石造物が祀られている。辻堂が建てられる立地の多くは、人々が集まりやすい場所や、集落の境付近に築かれている。実際、この辻堂は、江戸時代の西島村と力武村と大保村が接する境付近に立地していることから、交通の要所であったことが窺える。3号溝が使用されていた13世紀中頃～15世紀は、大保区内でも本遺跡だけでなく大保龍頭遺跡・大保横枕遺跡・大保権道遺跡・大保毎々遺跡と広範囲にわたって集落が築かれていたことがこれまでの発掘調査成果よりわかっていることから、多くの人々が行きかう地域であったことだろう。



第20図 調査地周辺の小字と溝

## 出土遺物観察表

### 1. 土器

法量=口、口径、高、器高、底、底径、頂、頂部 器種=土、土師器、須恵、須恵質土器、青、青磁、陶、陶器、瓦質、瓦質土器

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm (復元値)	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
6-1		1号溝	土・皿	口:(6.8) 底:(4.6) 高:2.0	外:にぶい黄(2.5Y6/3) 内:にぶい黄(2.5Y6/3)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	口～底約1/2	底部は糸切り。
6-2		1号溝	土・皿	底:6.4 高:1.7	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/1	底部は糸切り。
6-3		1号溝	土・皿	底:(6.7) 高:1.1	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/3	底部は糸切り。
6-4		1号溝	土・鍋	高:7.5	外:褐(10YR4/4) 内:にぶい黄褐(10YR5/3)	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内:ハケメ	口～胴上小片	内外面にコゲ付着。
6-5		1号溝	土・鍋	高:6.1	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	3mm以下の砂粒を多く含む	良	外:ヨコナデ、磨滅 内:ハケメ	口～胴上小片	
6-6		1号溝	土・鍋	高:7.3	外:にぶい黄(2.5Y6/3) 内:にぶい黄(2.5Y6/3)	4.5mm以下の砂粒をやや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内:ハケメ	口～胴上小片	
6-7		1号溝	土・鉢	高:5.15	外:にぶい褐(7.5YR5/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	4mm以下の砂粒をやや多く含む	良	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴上小片	内面にコゲ付着。
6-8		1号溝	須恵・すり鉢	高:5.2	外:灰(5Y4/1) 内:灰(5Y4/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴上小片	内面にすり目あり。
6-9		1号溝	青・碗	高:2.7	外:明オリブ灰(2.5GY7/1) 内:緑灰(5G6/1)	1mm以下の微砂をわずかに含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴上小片	外面に蓮弁文。
6-10	2-14	1号溝	丸瓦	—	外:灰黄色(2.5Y6/2)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外:工具痕 内:工具痕	小片	
6-11	2-5	2号溝	磁・瓶皿	底:(3.7) 高:2.5	外:灰白(5GY8/1) 内:灰白(2.5GY8/1)	1mm以下の微砂を少し多く含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴～底約3/4	内面の見込みに蛇の目あり。
6-12	2-4	2号溝	磁・碗	口:(9.0) 底:3.7 高:5.3	外:灰白(5Y7/1) 内:灰白(5Y7/1)	1mm以下の微砂を少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴約1/2 底完形	
6-13	2-6	2号溝	磁・碗	口:(11.0) 底:(3.8) 高:4.65	外:灰白(N8/) 内:灰白(N8/)	1mm以下の微砂をわずかに含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～底約1/2	内面の見込みに蛇の目あり。
6-14	2-3	2号溝	磁・碗	口:(10.6) 底:3.9 高:5.25	外:灰白(10Y8/1) 内:灰白(5YR8/1)	1mm以下の微砂を少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴約1/5 底完形	
6-15	2-2	2号溝	磁・瓶	底:(6.0) 高:7.45	外:灰白(10Y8/1) 内:灰白(7.5Y8/1)	1mm以下の微砂を少し含む	良好	外:釉薬 内:ヘラ削り、回転ナデ	胴約1/2 底完形	
6-16	2-1	2号溝	陶・灯明皿	底:(3.6) 高:2.1	外:赤褐(10YR5/3) 内:灰赤(10YR4/2)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良好	外:回転ナデ 内:釉薬	頂～底約1/2	底部は糸切り。
6-17	2-18	2号溝	丸瓦	—	外:灰色(5Y4/1)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:ナデ 内:ナデ	小片	頂部に穿孔あり。
6-18	2-16	2号溝	軒平瓦	—	外:黒褐色(2.5Y3/1)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外:ナデ 内:ナデ	小片	瓦頭文様あり。
11-1		3号溝	土・皿	口:(13.8) 底:(9.0) 高:2.65	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-2		3号溝	土・皿	口:(11.6) 底:(6.4) 高:3.0	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(7.5YR7/6)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-3		3号溝	土・皿	口:(12.9) 高:2.4	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～胴約1/4	
11-4		3号溝	土・皿	底:6.8 高:2.2	外:橙(5YR6/6) 内:橙(5YR7/6)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/3	底部は糸切り。
11-5		3号溝	土・皿	底:6.0 高:2.35	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴約1/3 底約2/3	底部は糸切り。
11-6		3号溝	土・皿	底:(7.8) 高:1.45	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/2	底部は糸切り。
11-7		3号溝	土・皿	口:(5.6) 高:1.8	外:灰黄褐(10YR6/2) 内:にぶい黄橙(10YR5/3)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/2	底部は糸切り。
11-8		3号溝	土・皿	底:(6.8) 高:1.55	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴約1/3 底約2/3	底部は糸切り。
11-9		3号溝	土・皿	底:(6.4) 高:1.05	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(7.5YR7/6)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/3	底部は糸切り。
11-10		3号溝	土・皿	底:4.8 高:1.4	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:磨滅	胴約1/5 底約1/1	底部は糸切り。
11-11		3号溝	土・皿	底:5.2 高:2.05	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴約1/4 底約1/1	底部は糸切り。
11-12		3号溝	土・皿	底:4.6 高:1.5	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂をかなり多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約2/3	底部は糸切り。
11-13		3号溝	土・皿	口:(9.0) 底:(7.0) 高:1.6	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:にぶい黄橙(10YR5/3)	1mm以下の微砂を少し含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-14		3号溝	土・皿	底:4.7 高:1.1	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:浅黄橙(7.5YR8/4)	1mm以下の微砂をやや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/1	底部はヘラ切り後板ナデ。
11-15		3号溝	土・皿	口:(7.6) 底:(5.8) 高:1.8	外:橙(7.5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/6)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-16		3号溝	土・皿	口:(7.6) 底:(5.9) 高:1.4	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:橙(7.5YR7/6)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-17		3号溝	土・皿	口:(8.0) 底:(6.0) 高:1.8	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
11-18		3号溝	土・皿	底:4.8 高:1.15	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/2	底部は糸切り。

挿図 番号	図版 番号	出土遺構	器種	法量cm (復元値)	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
11-19		3号溝	土・皿	口:(7.5) 底:(5.2) 高:1.5	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:灰黄褐(10YR4/2)	1mm以下の微砂を かなり多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	内外面にスス付着。 底部は糸切り。
11-20		3号溝	土・蓋	裾:(15.2) 高:1.8	外:にぶい黄(2.5Y6/3) 内:にぶい黄褐(10YR5/4)	1mm以下の微砂を 少し含む	劣	外:回転工具ナデ、ヨコナ デ 内:ナデ	頂～裾約1/6	内面にコゲ付着。
11-21		3号溝	瓦器・壺	底:(9.6) 高:3.4	外:灰白(2.5Y7/1) 内:灰白(2.5Y7/1)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良好	外:回転ナデ 内:ナデ	胴下～底約1/4	
11-22		3号溝	土・すり鉢	底:(11.8) 高:2.6	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:灰黄(2.5Y6/2)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外:磨滅、ハケメ 内:磨滅、ハケメ	胴下～底約1/3	内面に4本1単位のすり目あり。
11-23		3号溝	土・すり鉢	底:(15.4) 高:4.5	外:灰黄(2.5Y7/2) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外:磨滅、ハケメ後ナデ、ナ デ 内:磨滅	胴下～底約1/6	内面に5本1単位のすり目あり。
11-24		3号溝	土・すり鉢	口:(23.0) 高:6.0	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴約1/5	内面にすり目あり。
11-25		3号溝	土・すり鉢	口:(19.2) 高:8.2	外:黄灰(2.5Y6/1) 内:にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外:ハケメ後ナデ 内:ハケメ	口～胴約1/6	内面に4本1単位のすり目あり。
11-26		3号溝	土・鉢	口:(29.6) 高:7.7	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:にぶい黄褐(10YR5/3)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内:ハケメ、ナデ	口～胴下約1/4	外面に黒斑あり。 内面にスス付着。
11-27		3号溝	土・鉢	口:(29.6) 高:8.55	外:灰黄褐(10YR5/2) 内:にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ハケメ後ナデ	口～胴約1/8	外面にコゲ付着。 内面にスス付着。
11-28		3号溝	土・鉢	口:(25.8) 高:6.25	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、押さえ、ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴上約1/8	外面にスス付着。
11-29		3号溝	土・鉢	口:(30.2) 高:5.9	外:橙(7.5YR6/6) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴上約1/8	外面にスス付着。
12-1		3号溝	須質・すり鉢	高:12.85	外:にぶい黄(2.5Y6/3) 内:灰黄(2.5Y7/2)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、ナデ 内:ハケメ後ナデ	口～胴小片	胴部に穿孔(外一内)2か所あり。 内面に4本1単位のすり目あり。
12-2	2-12	3号溝	土・すり鉢	口:(28.6) 高:9.7	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	2mm以下の砂粒を やや多く含む	劣	外:ハケメ後ナデ消し 内:ハケメ後ナデ、ヨコナデ	口～胴約1/6	外面に被熱痕あり。 内面に4本1単位のすり目あり。
12-3		3号溝	須質・すり鉢	口:(16.4) 高:8.6	外:黄灰(2.5Y5/1) 内:黄灰(2.5Y5/1)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	口～胴下約1/5	内面に4本1単位のすり目あり。
12-4	2-7	3号溝	須質・すり鉢	口:(29.6) 底:(13.4) 高:9.4	外:灰(N6/1) 内:灰白(2.5Y7/1)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ、磨滅 内:ヨコナデ、ハケメ、磨滅	口～底約1/4	内面に4本1単位のすり目あり。
12-5		3号溝	須恵・鉢	口:(29.3) 高:6.8	外:黄灰(2.5Y5/1) 内:淡黄(2.5Y8/3)	3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ、ハケ メ後ナデ	口～胴約1/6	
12-6		3号溝	土・鍋	口:25.0 高:6.6	外:黒褐(10YR3/1) 内:褐(7.5YR4/4)	2mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、磨滅 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴上約1/2	外面にコゲ付着。
12-7	2-9	3号溝	土・鍋	口:(30.6) 高:10.25	外:オリーブ黒(5Y3/1) 内:黒(2.5Y2/1)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外:ヨコナデ、磨滅 内:ヨコナデ、ハケメ後ナデ	口～胴下約1/5	外面にコゲ付着。 内面にスス付着。
12-8	2-8	3号溝	土・鍋	口:(42.5) 高:5.6	外:橙(7.5YR6/6) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴上約1/6	外面にコゲ付着。
12-9	2-10	3号溝	土・鍋	口:(42.8) 高:8.4	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内:ハケメ	口～胴約1/8	外面にスス付着。
12-10	2-11	3号溝	土・鍋	口:(45.2) 高:9.3	外:にぶい褐(7.5YR5/3) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外:ヨコナデ、押さえ、ハケ メ後ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴約1/8	外面にコゲ付着。
13-1		3号溝	土・湯釜	高:6.0	外:にぶい橙(7.5YR6/4) 内:灰黄褐(10YR5/2)	1mm以下の微砂を やや多く含む	劣	外:ナデ、ヨコナデ 内:ナデ	胴約1/8	外面位コゲ・スス付着。
13-2		3号溝	土・湯釜	高:6.3	外:褐灰(10YR5/1) 内:灰黄(2.5Y6/2)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:ナデ、ヨコナデ 内:工具ナデ	胴約1/8	外面にスス・コゲ付着。
13-3		3号溝	土・湯釜	高:9.5	外:褐灰(10YR5/1) 内:褐灰(10YR4/1)	1mm以下の微砂を 多く含む	劣	外:ナデ、ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、押さえ	胴約1/6	外面にコゲ付着。
13-4		3号溝	瓦質・火鉢	高:9.5	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:浅黄(2.5Y7/3)	2mm以下の砂粒を 多く含む	良	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、ハケメ後ナデ 消し、磨滅	口～胴小片	外面に印あり。 内外面にスス付着。
13-5		3号溝	瓦質・火鉢	高:12.1	外:灰黄(2.5Y6/2) 内:黄灰(2.5Y4/1)	1mm以下の微砂を 少し含む	劣	外:ナデ 内:ハケメ後ナデ消し、ナ デ	胴約1/4	外面に印あり。
13-6		3号溝	陶・壺	口:(12.8) 高:5.0	外:にぶい褐(7.5YR5/3) 内:灰黄褐(10YR5/2)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、絞り、ナデ	口～胴上約1/6	
13-7		3号溝	青・皿	口:(12.4) 高:2.4	外:オリーブ灰(10YR6/2) 内:オリーブ灰(10YR6/2)	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴約1/4	
13-8		3号溝	青・皿	底:(7.2) 高:1.8	外:灰白(2.5GY8/1) 内:明オリーブ灰(2.5GY7/1)	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴～底約1/4	
13-9		3号溝	青・碗	高台:6.1 高:1.7	外:オリーブ灰(2.5GY5/1) 内:オリーブ灰(2.5GY5/1)	1mm以下の微砂を わずかに含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	高台約1/1	内面見込みに草花文。
13-10		3号溝	青・碗	高台:4.6 高:4.5	外:オリーブ灰(10Y5/2) 内:オリーブ灰(10Y5/2)	1mm以下の微砂を わずかに含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴～高台約1/2	内面見込みに草花文。 外面に蓮弁文。
14-1	2-15	3号溝	平瓦	—	外:黄灰色(2.5Y4/1)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外:工具痕 内:工具痕	小片	
16-1		4号溝	磁・皿	口:(18.1) 高:3.6	外:灰オリーブ(10YR6/4) 内:暗オリーブ(10YR7/4)	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴約1/6	
16-2		4号溝	磁・碗	高台:(5.25) 高:1.35	外:明オリーブ灰(2.5GY7/1) 内:明緑灰(5G7/1)	1mm以下の微砂を わずかに含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴下～高台約1/3	内面見込みに蛇の目あり。
16-3		4号溝	磁・碗	高台:(3.8) 高:1.9	外:明緑灰(7.5GY8/1) 内:灰白(5GY8/1)	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴～高台約1/4	
16-4		4号溝	磁・碗	高台:(3.8) 高:2.8	外:灰白(N8/ ) 内:灰白(N8/ )	1mm以下の微砂を わずかに含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴下～高台約1/4	
16-5		5号溝	土・皿	底:(8.1) 高:1.1	外:にぶい黄橙(10YR6/3) 内:にぶい黄橙(10YR6/4)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/4	底部は糸切り。

挿図番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm (復元値)	色調	胎土	焼成	調整	残存率	備考
16-6		5号溝	土・皿	底:(6.0) 高:1.8	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/4	底部は糸切り。
16-7		5号溝	青・碗	高:2.6	外:オリーブ灰(10Y5/2) 内:オリーブ灰(10Y5/2)	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口～胴上小片	外面に廉弁文あり。
16-8		8号溝	土・皿	底:(8.6) 高:1.15	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/6	底部は糸切り。
16-9		8号溝	土・皿	口:(5.6) 底:(4.2) 高:1.1	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
16-10		8号溝	土・鍋	高:4.0	外:灰黄褐(10YR5/2) 内:灰黄褐(10YR6/2)	3mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外:ナデ 内:ハケメ	口～胴上小片	内面にスス付着。
16-11		2号土坑	弥・壺	底:(16.8) 高:2.9	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:ハケメ 内:磨減	胴下～底約1/3	
16-12	2-17	2号土坑	丸瓦	—	外:灰色(5Y4/1)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:ナデ 内:ナデ	小片	頂部に穿孔あり。
16-13	2-20	5号土坑	土・皿	口:(14.0) 底:7.3 高:3.3	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:にぶい黄橙(10YR6/3)	1mm以下の微砂を 多く含む	—	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～胴約1/4 底完形	底部は糸切り後ナデ。 外面にタール状の物質付着。 内面にスス付着。
16-14		5号土坑	土・皿	口:(14.3) 底:(9.4) 高:2.15	外:浅黄(2.5Y7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
16-15		5号土坑	土・皿	口:(8.8) 底:(6.8) 高:1.3	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR6/4)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り後板ナデ。
16-16		5号土坑	須賀・すり鉢	底:(11.8) 高:3.75	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:灰白(2.5Y7/1)	2mm以下の砂粒を やや多く含む	劣	外:ハケメ後ナデ 内:ナデ	胴下～底約1/3	底部は板ナデ。 外面にコゲ付着。 内面に4本1単位のすり目あり。
16-17		5号土坑	土・鍋	口:(26.5) 高:13.35	外:にぶい褐(7.5YR5/3) 内:橙(7.5YR6/6)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ、ハケ メ後ナデ	口～胴上約1/6	外面にコゲ付着。
16-18		5号土坑	土・鍋	口:(41.9) 高:7.75	外:橙(7.5YR6/6) 内:橙(7.5YR6/6)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴上約1/6	内外面にコゲ付着。
19-1		8号土坑	土・皿	底:(9.4) 高:1.3	外:にぶい橙(7.5YR7/4) 内:にぶい橙(7.5YR7/4)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り。
19-2		8号土坑	瓦質・火鉢	高:8.9	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:褐灰(10YR4/1)	1mm以下の砂粒を やや多く含む	良	外:ヨコナデ、ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ後ナデ	口～胴上小片	外面に印あり。 内外綿にスス付着。
19-3		8号土坑	須賀・すり鉢	高:11.5	外:灰(5Y5/1) 内:灰(7.5Y5/1)	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外:ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内:ヨコナデ、ハケメ	口～胴小片	内面に4本1単位のすり目あり。 内面にスス付着。
19-4		9号土坑	土・皿	口:(11.6) 底:(10.8) 高:1.1	外:にぶい黄橙(10YR7/4) 内:橙(7.5YR6/6)	1mm以下の微砂を 少し含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/6	底部は糸切り。
19-5		9号土坑	土・皿	口:(9.8) 底:(8.1) 高:1.05	外:橙(7.5YR7/6) 内:橙(7.5YR6/6)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/4	底部は糸切り後板ナデ。
19-6		9号土坑	土・皿	口:(8.6) 底:(7.2) 高:1.3	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/6	底部は糸切り後板押し。
19-7	2-19	9号土坑	青・碗	底:5.9 高:3.7	外:オリーブ灰(10Y5/2) 内:オリーブ灰(10Y5/2)	1mm以下の微砂を 少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	胴～底約1/4 高台約3/4	内面には蛇の目あり。
19-8		P5	土・皿	口:(14.8) 底:(10.8) 高:2.7	外:にぶい黄橙(10YR7/3) 内:にぶい黄橙(10YR7/3)	1mm以下の微砂を やや多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口～底約1/2	底部は糸切り後板押し。
19-9		P8	土・皿	底:(7.6) 高:1.25	外:にぶい黄橙(10YR6/4) 内:にぶい黄橙(10YR7/4)	1mm以下の微砂を 多く含む	良	外:回転ナデ 内:回転ナデ	胴～底約1/4	底部は糸切り。

## 2. 石器

挿図番号	図版番号	出土遺構	種類	計測値				備考
				長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	
6-19		2号溝上層	温じゃく	3.7	1.25	2.4	66.0	表面にコゲ付着。
14-2		3号溝下層	砥石	5.2	4.8	2.3	86.5	砥面4面
14-3		3号溝	砥石	6.60	7	4.1	220.0	砥面2面
14-4		3号溝	砥石	6.95	4.55	1.35	46.8	砥面1面
14-5	2-13	3号溝	石臼	径:14.8		7.1	1270	
14-6		3号溝上層	剥片	2.9	2.3	0.4	3.2	石材:黒曜石
14-7		3号溝	石核	5.35	2.3	1.4	17.68	石材:黒曜石

# 図版 1



①調査区全景（真上から）



②1号溝ベルト土層断面  
（東側から）



③1号溝完掘  
（西側から）



④2号溝ベルト土層断面  
（東側から）



⑤3号・8号溝完掘  
（西側から）



⑥2号溝完掘  
（東側から）



⑦4号溝完掘  
（南側から）



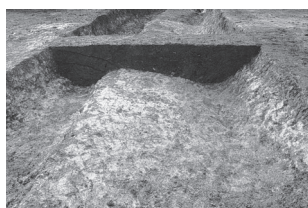
⑧4号溝完掘  
（北側から）



⑨7号溝完掘  
（南側から）



⑩5号土坑完掘  
（北側から）



⑪4号溝ベルト土層断面  
（北側から）



⑫5号溝ベルト土層断面  
（北側から）



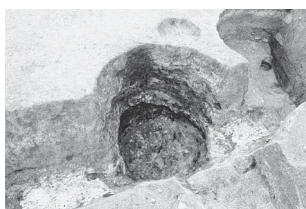
⑬7号溝北壁土層断面  
（南側から）



⑭5号土坑土器出土状況  
（南側から）



⑮5号土坑西壁土層断面  
（東側から）



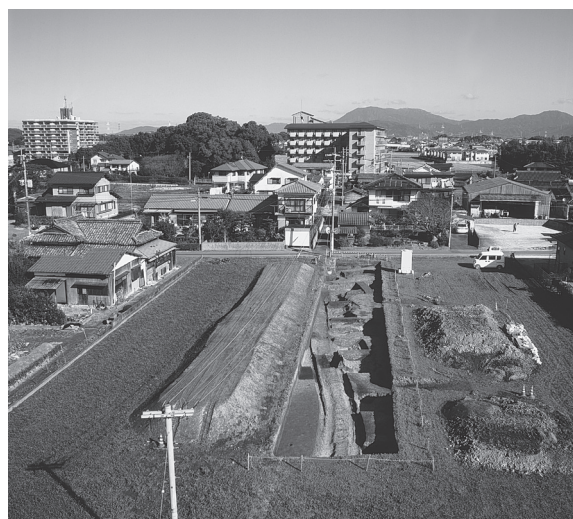
⑯6号土坑完掘  
（北側から）



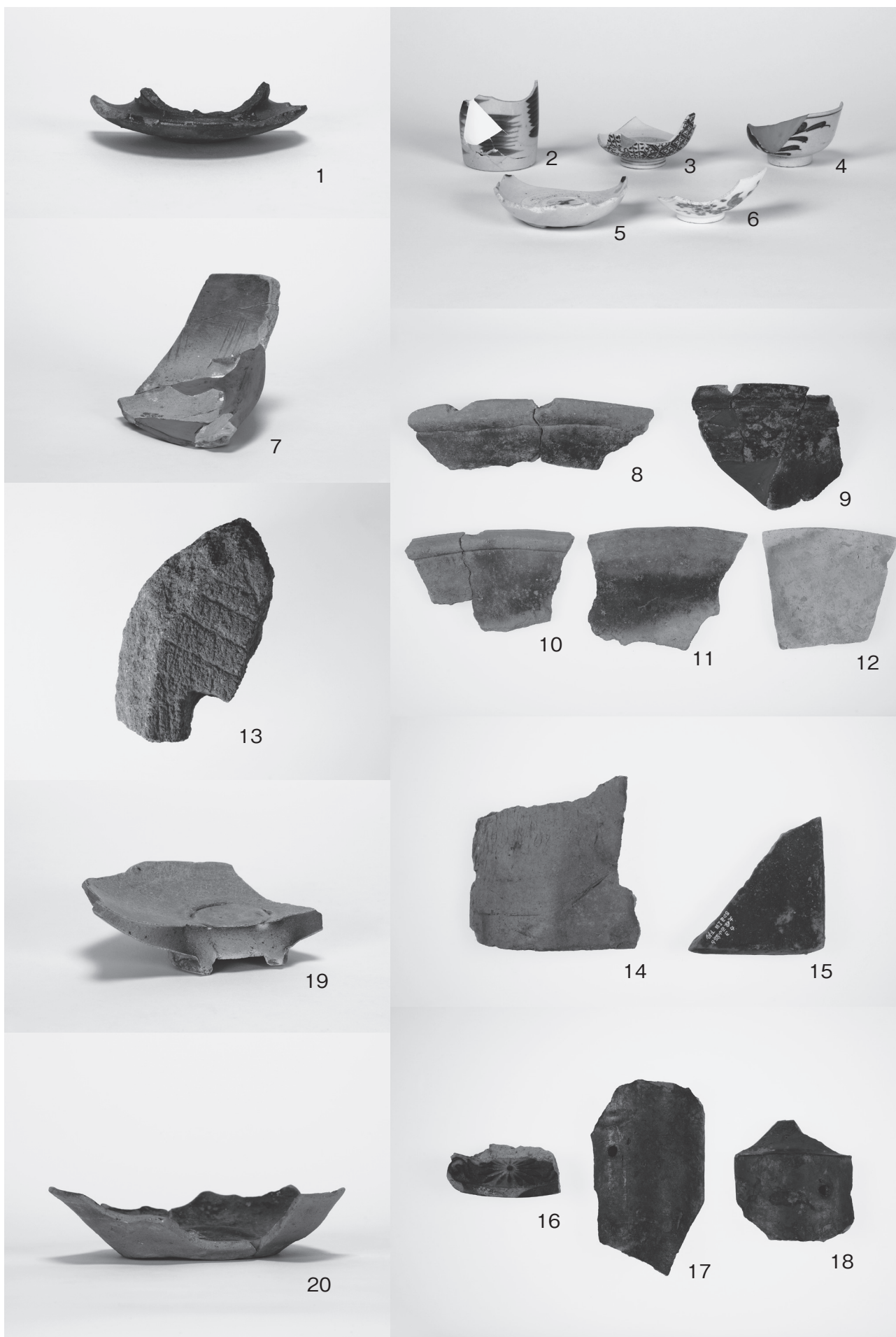
⑰8号土坑完掘  
（西側から）



⑱9号土坑整地層検出状況  
（東側から）



⑲調査区遠景（南側から）



出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	おおほにししょうじいせき							
書名	大保西小路遺跡6							
副書名	福岡県小郡市大保所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第307集							
編著者名	西江 幸子							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒838 - 0198 福岡県小郡市小郡 255 - 1 Tel. 0942 - 72 - 2111							
発行年月日	平成28年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおほにししょうじ 大保西小路 いせき 遺跡6	ふくおかけん 福岡県 おごおりし 小郡市 おおほ 大保	40216		33° 24' 46"	130° 33' 35"	2015. 1. 8 } 2015. 3. 3	264 m <sup>2</sup>	道路新設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大保西小路 遺跡6	集落	中世 近現代	溝 土坑 ピット		土師器 須恵質土器 青磁 磁器 陶器			
要約	<p>今回の調査では、調査区全体の8割以上の広さで溝を数条確認した。これらの溝を出土遺物や遺構の切り合い関係等により検討した結果、戦後すぐに作成された地籍図の小字境の溝と一致する溝であることがわかった。また、周辺地域における調査結果や歴史的背景等を踏まえ考察した結果、地籍図に記された溝は中世にも存在していた可能性が高いことがわかった。</p>							

### 大保西小路遺跡6

小郡市埋蔵文化財調査報告書第307集

平成28年3月31日

編集 小郡市教育委員会  
福岡県小郡市小郡 255 - 1

発行 片山印刷有限会社  
福岡県小郡市祇園1丁目8-15